

「遠州の小京都まちづくり」基本計画

平成29年3月

遠州の小京都まちづくり推進会議



「遠州の小京都まちづくり」基本計画

— 目 次 —

はじめに

1 遠州の小京都まちづくり基本構想について	1
1-1 小京都とは・・・.....	1
(1) 小京都について.....	1
(2) 「遠州の小京都の由縁」 ～ 森町之賦 ～.....	1
(3) 全国京都会議への加盟条件と森町の資源.....	2
1-2 「遠州の小京都」とは・・・.....	3
(1) 「遠州の小京都」とは（『現代版：森町之賦』）.....	3
(2) 『遠州の小京都・森町』のまちづくりの目標.....	3
1-3 「遠州の小京都」のまちづくりの推進に向けて.....	4
(1) まちづくりの基本方針.....	4
(2) まちづくりの推進に向けたねらい・方向.....	5
2 森町の観光の課題	6
2-1 森町の観光の課題分析.....	6
(1) 森町の観光の強み（Strength）.....	6
(2) 森町の観光の弱み（Weakness）.....	7
(3) 森町の観光の機会（Opportunity）.....	8
(4) 森町の観光の脅威（Threat）.....	8
(5) SWOT分析表.....	9
(6) クロスSWOT分析表.....	10
2-2 各団体へのヒアリングの実施（結果概要）.....	11
2-3 森町の観光まちづくりの課題.....	13
3 森町の観光まちづくり戦略	16
3-1 遠州の小京都まちづくり戦略の柱.....	16
3-2 遠州の小京都まちづくり戦略.....	17
(1) 環境づくり.....	17
(2) 商品づくり.....	18
(3) ブランド力づくり.....	19
(4) 拠点づくり.....	20
(5) 組織・体制づくり.....	20
(6) 人づくり.....	21
4 遠州の小京都まちづくり計画	22
(1) 環境づくり.....	22
(2) 商品づくり.....	23
(3) ブランド力づくり.....	23
(4) 拠点づくり.....	24
(5) 組織・体制づくり.....	24
(6) 人づくり.....	24

5 参考資料	25
5-1 活動経過.....	25
5-2 会員名簿.....	26
(1) 遠州の小京都まちづくり推進会議.....	26
(2) 遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会.....	26
(3) 事務局.....	27

(資料編)

1 「遠州の小京都まちづくり計画」における取組の抽出について	28
(1) 抽出のフロー.....	28
(2) 「遠州の小京都まちづくり基本構想」で示された「まちづくりの提案」.....	29
(3) まちづくりの提案における取組の優先順位・取組主体の検討結果.....	30
(4) 優先度（緊急性及び実現性）の高い取組と取組主体（案）.....	32
(5) ニーズ・実現可能性を踏まえた短期的に取り組むべき取組.....	34
2 観光の概況の整理	37
2-1 森町を取り巻く環境の変化.....	37
(1) 森町を取り巻く環境の変化.....	37
(2) 近年の観光の動向.....	38
2-2 森町の観光の概況.....	42
(1) 観光交流客数の推移（年度別）.....	42
(2) 観光交流客数の推移（月別）.....	44
(3) 森町内の新東名高速道路ICの利用状況（年度別）.....	45
(4) 森町内の新東名高速道路ICの利用状況（月別）.....	45
(5) 森町内の天竜浜名湖鉄道の利用状況.....	47
(6) レンタサイクルの利用状況の推移.....	48
(7) 森町の観光資源の特性把握.....	49
(8) 森町の観光客の受入体制等の状況.....	55
(9) 森町の観光の概況まとめ.....	61

はじめに

全国には「小京都」と呼ばれるまちが数多くあります。そのうち、47^{*}のまちが全国京都会議に加盟し、京都のイメージにある美しい町並み、景観、伝統・文化、環境づくりに取り組んでいます。

※平成 28 年度末現在

森町は、三方を小高い山々に囲まれ、中央を太田川が流れる風情豊かなまちで、大正時代にここを訪れた地理学者「志賀 重昂（しが しげたか）」は、山紫水明のこのまちを「小京都」と称賛し、以来「遠州の小京都」と呼ばれるようになりました。それ以降、社会が大きく変化したなかにおいても、当時の面影を残す古い町屋や蔵等が残り、また、舞楽や祭り等の伝統・文化が大事にされてきた森町も、平成 24 年 11 月に全国京都会議へ加盟しました。その約半年前になる平成 24 年 4 月 14 日には、森町において待望されていた新東名高速道路が開通し、森掛川 IC が開設するとともに、平成 26 年 3 月 29 日には遠州森町スマート IC が開設されるなど、森町の発信・PR や新たな交流の創出及び地域の活性化に向けての期待が一層高まっています。さらには、平成 26 年度に「遠州の小京都まちづくり基本構想」が策定され、「遠州の小京都・森町」をその由縁から改めて整理し、「遠州の小京都」のまちづくりの方向性が示されました。

このようなことを踏まえ、遠州の小京都まちづくり推進会議及び作業部会では、「遠州の小京都」を“看板”として、今後の森町の観光や産業の振興に寄与するために必要な取組等について検討し、「遠州の小京都まちづくり基本計画」として、とりまとめました。

今後は、この基本計画のもと、「遠州の小京都・森町」のまちづくりを、町民みんなで行っていきましょう。

平成 29 年 3 月

遠州の小京都まちづくり推進会議

1 遠州の小京都まちづくり基本構想について

「遠州の小京都まちづくり基本構想」でとりまとめた内容から、本計画の前提となる基本的な事項について、抜粋・再掲しました。

1-1 小京都とは…

(1) 小京都について

「小京都」とは、古い町並みや風情が京都に似ていることから、各地で名づけられたまちの愛称であり、室町時代以降、各地の大名が京都を模倣したまちづくり（都うつし）をしたのが、「小京都」の起源といわれています。現在、狭義では、「全国京都会議」に加盟する市町のことをいいます。

「全国京都会議」は、1985（昭和 60）年に、京都市をはじめとする 26 市町により結成され、「小京都と京都ゆかりのまち」の PR や文化の掘り起こし策などの協議をしています。1988（昭和 63）年の第 4 回総会において、全国京都会議への加盟基準が定められ、その 1 つ以上に合致していれば、総会で承認されます。

森町は、2012（平成 24）年 11 月に加盟し、47 の加盟地域（平成 28 年度末）の中でも、全ての加盟基準に合致する「小京都」を代表するまちの一つです。

全国京都会議への加盟基準

- 1 京都に似た自然と景観
- 2 京都との歴史的なつながり
- 3 伝統的な産業と芸能があること

(2) 「遠州の小京都の由縁」 ～ 森町之賦 ～

日本の美しい風景を世界に知らしめた地理学者志賀重昂氏（1863～1927 年 | 愛知県岡崎市出身）は、大正 12 年に森町を訪れ、この地の風景の美しさに心を打たれ、「森町之賦」（森町を称える詩）を詠みました。

「三方を山々に囲まれ、南部一帯に平野が広がっている。帯のように太田川が流れ、左右ににぎやかな町並みがある。三味線や太鼓のお囃子や賑やかな唄が川の流れを隔てて聞こえてきたり消えたりしている。その様はどこにでもある風情ではない、まさに『小京都』である。」というもので、森町が「遠州の小京都」と呼ばれる由縁の詩として伝えられています。

依い 隔へだて 一いつ 峯ほう
稀き 水みづ 帯たい 巒らん 森もり
風ふう 絃げん 夾きょう 三さん 町まち
物ぶつ 歌か 河が 繞じょう 之の
小しょう 声こゑ 分わか 接せつ 賦ふ
京きょう 断だん 巷こう 平へい
都と 続ぞく 衢く 蕪ぶ

(3) 全国京都会議への加盟条件と森町の資源

「全国京都会議」の加盟基準を基に、森町の資源と京都との関係性を整理すると、以下のようなものが挙げられます。

<p>京都に似た 自然や景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○三方を山々で囲まれ、中央を太田川が流れている ○町の中心には四条、五条のまちと同じ、森市場（森の町並み）がある ○比叡山と同じように太田川水源の山を背後に位置し、京都と同じように賀茂神社など寺社が配置されている ○桜、花しょうぶ、あじさい、ききょう、はぎ、紅葉などの花めぐり <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>桜</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ききょう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>紅葉</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>太田川</p> </div>
<p>京都との 歴史的な つながり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○遠州森町の舞楽 <ul style="list-style-type: none"> ●小國神社・天宮神社の舞楽は、左舞・右舞の一对をなし、都の文化を受け継いでいる ●山名神社の舞は、京都・祇園祭の流れをくみ、京都の祇園祭で途絶えてしまった貴重な芸能を伝えている <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>小國神社十二段舞楽</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>天宮神社十二段舞楽</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>山名神社天王祭舞楽</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○桜御前の伝説（蓮華寺と京都清閑寺） ○菅原道真公の三人の従者の伝説 ○小國神社と青蓮院門跡 ○蓮華寺と比叡山 ○天方通季と三条西家 ○森のまつりで三島神社の男坂に掲げられる幟<small>のぼり</small>は、京都の有名店の帆布で作られている <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>蓮華寺</p> </div>
<p>伝統的な 産業と芸能 があること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○お茶 ○森山焼 ○梅衣などの和菓子 ○治郎柿などの伝統的な農産物 ○遠州森町の3つの舞楽 ○森のまつり（お囃子を練習する笛の音は、今も「森町之賦」を思い起こす情景である） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>森の茶・和菓子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>森山焼</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>森のまつり</p> </div>

1-2 「遠州の小京都」とは…

(1) 「遠州の小京都」とは (『現代版：森町之賦』)

「遠州の小京都」たる由縁は、近代の森町の情景を詠んだ「森町之賦」です。

この「森町之賦」になぞらえて、町民はもちろん、森町を訪れる人々などすべての人が思い浮かべる『遠州の小京都・森町』のイメージを『現代版：森町之賦』としてあらわしました。

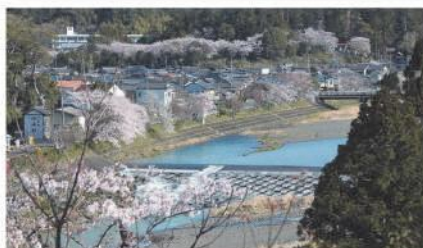
現代版：森町之賦

三方を自然豊かな山々に囲まれ、清らかな太田川はさらさらと流れ、蔵の残る町並みはどこか懐かしい。

由緒あるお宮やお寺も多く、古くから伝承されてきた舞楽やまつりは、くらしの中に息づいている。

森山焼、おいしい和菓子と森の茶、豊かな自然と農の恵みを楽しむ。ゆったり和やかな雰囲気でおもてなし。

これこそが、「遠州の小京都・森町」である。



(2) 『遠州の小京都・森町』のまちづくりの目標

まち・人・ものに息づく文化・伝統を育み

みんなの「絆」でもてなす まちづくり

京都にも通ずる、森の まち・人・もの に息づいている文化・伝統を、次代にしっかりと守り伝えます。

そして、「遠州の小京都」としての由縁を大切に育んでいきます。

豊かな自然環境のなか、森の茶をはじめ、治郎柿やとうもろこしなどの豊かな農の恵み、和菓子、森山焼などを活かして、森の まち・人・もの、みんなの「絆」で、おもてなしをするまちづくりを展開します。

1-3 「遠州の小京都」のまちづくりの推進に向けて

(1) まちづくりの基本方針

『遠州の小京都・森町』の「まちづくりの目標」の実現に向けて、まちづくりの基本的な考え方を次のとおり整理しました。

みんなで

『遠州の小京都・森町』を

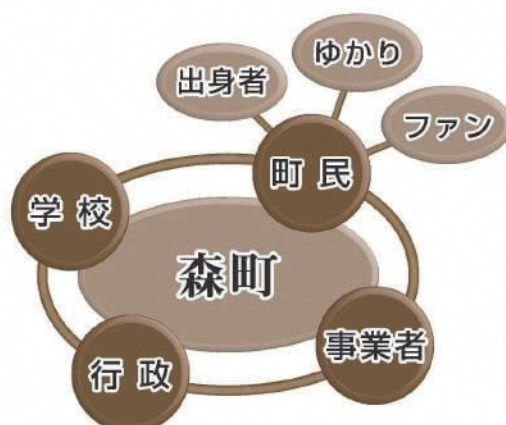
◇ 継承する ◇

◇ 発信する ◇

◇ もてなす ◇

※「みんな」とは…

森町にかかわるすべての人たちのことであり、町民(出身者、森町ゆかりの人、森町のファンを含む)、学校、行政、事業者等のことをいう。



(2) まちづくりの推進に向けたねらい・方向

「まちづくりの基本方針」に沿って、推進に向けた「ねらい」と「取り組みの方向」を明らかにしました。

みんなで『遠州の小京都・森町』を継承する

ねらい	「遠州の小京都・森町」への理解を深め、歴史的な価値の保全や伝統文化を守り伝えるとともに、歴史文化を活かして魅力を高める。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none">● 「遠州の小京都」について学ぶ● 「遠州の小京都」を意識した啓発活動の推進（教育など）● 舞楽やまつり文化の伝承● 伝統的産業の継承

みんなで『遠州の小京都・森町』を発信する

ねらい	「遠州の小京都・森町」の知名度と集客を高めるため、その魅力を発信する。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none">● 「遠州の小京都」のPR● 「遠州の小京都」にまつわる観光コースや体験プログラムの構築

みんなが『遠州の小京都・森町』でもてなす

ねらい	来訪者が何度も訪れたいくなる「遠州の小京都・森町」にしていくため、森のまち・人・ものを活かしておもてなしをする。
取り組みの方向	<ul style="list-style-type: none">● 「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観の保全・整備・活用● 「遠州の小京都」ゆかりの地の整備● 「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実● 「遠州の小京都」を意識した商品でおもてなし

2 森町の観光の課題

2-1 森町の観光の課題分析

森町の課題の整理にあたっては、内的要因である「強み」と「弱み」、外的要因である「機会」と「脅威」の視点から整理し、SWOT分析を行いました。

(1) 森町の観光の強み (Strength)

表. 森町の観光の強み (Strength)

豊かな自然資源	町域約 70%を占める森林や太田川等の豊かな自然が広がる。
のどかな田園風景	南部に広がる一団の田園風景や、中山間地に広がる茶園風景は、本町の特徴的な風景となっている。
小國神社に代表される多くの神社仏閣	小國神社をはじめ、大洞院、天宮神社、三島神社、山名神社など、多くの神社仏閣が鎮座する。
「森のまつり」の伝統	江戸時代から続く「けんか祭り」といわれる激しい練りが特徴で、11月第1週の金・土・日の3日間で行われる。
遠州の小京都の由縁と古い町並みと文化の継承 (国指定無形民俗文化財の3つの舞楽)	森町之賦を由縁とした「遠州の小京都」と呼ばれ、全国京都会議に加盟。京都とのつながりを示す3つの舞楽は国指定無形民俗文化財である。また、秋葉街道の宿場町として栄え、当時をしのぶ常夜灯や土蔵、町屋などの古い町並みが残っている。
「森の石松」の高い知名度	浪曲でおなじみ、一定の年齢層以上では知名度が高い「森の石松」。大洞院に墓があり、毎年の供養祭、3年に1度の石松まつりがある。
複合型体験施設のアクティ森	陶芸などの創作体験やアウトドア体験、地場製品の販売所やレストランを備えた複合型体験施設であり、豊かな自然に囲まれ、家族そろって楽しめる施設である。
ミキホール・森アリーナなどの充実した文化施設	舞台芸術を主体として、演劇や舞楽、音楽演奏に適した多目的ホールを備えたミキホール (森町文化会館) がある。また、森アリーナ (森町総合体育館) は、各種国内公式戦にも対応可能な競技場を備え、トレーニング室などのほか、研修室や会議室が利用できる。
知名度の高い農産物 (森の茶・治郎柿・とうもろこし (甘々娘) など)	浪曲「森の石松」で一躍全国にその名を知られるようになり、森町の良好な自然条件の中で栽培される「森の茶」のほか、皇室献上され原産地である治郎柿、近年時期になるとマップを作成し、多くの購買客でにぎわうとうもろこし (甘々娘) などの農作物がある。
多くの偉人・著名人を輩出	鈴木藤三郎、村松梢風をはじめ、近年では日本画家の松井冬子など、多くの偉人・有名人を輩出している。

(2) 森町の観光の弱み (Weakness)

表. 森町の観光の弱み (Weakness)

小國神社以外の観光の目玉がない (観光客の集中)	本町の観光客の多くは小國神社に集中している。他の観光ポイントに回っていないため、滞在時間も短くなる。
観光客の受入体制 (飲食・宿泊等) が不十分	観光客の受入体制として、飲食施設、宿泊施設が少なく、不十分。また古い町並みがある旧森町街では公衆トイレや休憩施設が不足している。
インパクトのある特産品・土産物が不十分	森町といったら…という特産品・土産物については、農産物など季節が限られるなど、1年を通じた特産品・土産物が不足している。
町内の公共交通基盤が弱い	天竜浜名湖鉄道の駅は5駅あるものの、小國神社、アクティ森などの主要観光施設へのアクセス性が弱い。町内を周回するようなバスなどもない。
町内の商店街の衰退	旧森町街など商店街は衰退し、空き店舗・空き家が多くなっている。
古い町並みの喪失	近年、古い町屋や蔵が取り壊され、歴史を感じさせる町並みが喪失している。
地域資源の活用が不十分	地域資源を示すサインなどが未整備であり、十分にPR・活用されていない。
観光振興を先導する組織が弱い	観光協会の事務局が町の中にあり、観光振興を先導する組織体制が弱い。
知名度が低い	新東名高速道路のICやPAが設置され、全国京都会議に加盟したものの、知名度はまだ低い。

(3) 森町の観光の機会 (Opportunity)

表. 森町の観光の機会 (Opportunity)

2つの新東名高速道路のIC(森掛川・遠州森町スマート IC)によるアクセス性の向上	平成 24 年の新東名高速道路の御殿場 JCT～三ヶ日 JCT の開通により、森町初の高速道路の IC が開設。大都市圏及び静岡市・浜松市の県内の大都市との距離が大いに縮まった。
5つの鉄道駅(遠州森・戸綿・遠江一宮・森町病院前・円田)と天浜線の文化財登録	5つの駅が設置されている天竜浜名湖鉄道および駅舎・橋梁等の施設が国登録文化財となり、話題性が向上し、鉄道ファンの取り込みなどの効果も期待される。
自然観光、歴史・文化観光の関心度が高い	旅行の動機や行きたい旅行のタイプとして、自然観光や歴史文化観光のニーズが高い。
グルメ・食の関心度が高い	旅行の動機や行きたい旅行のタイプとして、グルメ・食が最もニーズが高く、知名度の高い農産物等がある。
ストレス逃避、リラックスなど癒しを求める傾向が強い	四季を通じて楽しめる豊かな自然環境、のどかな田園風景など、安らぎや癒しを与える環境がある。

(4) 森町の観光の脅威 (Threat)

表. 森町の観光の脅威 (Threat)

人口減少による観光市場の変化	少子高齢化に伴い、国内市場の縮小や高齢人口の増加など、国内の観光市場は変化しており、戦略の転換が求められる。
他の観光地との競争激化	全国の多くの都市が、観光振興に注力しており、積極的なプロモーションなど観光振興によるまちおこしが行われている。特に新東名高速道路の整備により、静岡県の中山間地は新たな観光地として注目されるが、新東名高速道路の延伸をはじめする高速道路ネットワークの整備により、県内のみならず、隣県の都市が競合となる。

(5) SWOT 分析表

SWOT 分析結果を整理しました。

表. SWOT 分析表

	強み (Strength)	弱み (Weakness)
内部要因	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然資源 ・のどかな田園風景 ・小國神社に代表される多くの神社仏閣 ・「森のまつり」の伝統 ・遠州の小京都の由縁と古い町並みと文化の継承（国指定無形民俗文化財の3つの舞楽） ・「森の石松」の高い知名度 ・複合型体験施設のアクティ森 ・ミキホール・森アリーナなどの充実した文化施設 ・知名度の高い農産物（森の茶・治郎柿・とうもろこし（甘々娘）など） ・多くの偉人・著名人を輩出 ・豊かな歴史文化資源 ・花めぐり ・元気な人、元気な地域 ・森町全体が観光地 ・小回りが利く行政規模 ・新町長への期待感 	<ul style="list-style-type: none"> ・小國神社以外の観光の目玉がない（観光客の集中） ・観光客の受入体制（飲食・宿泊等）が不十分 ・インパクトのある特産品・土産物が不十分 ・町内の公共交通基盤が弱い ・町内の商店街の衰退 ・古い町並みの喪失 ・地域資源の活用が不十分 ・観光振興を先導する組織が弱い ・知名度が低い ・「遠州の小京都」の文化が醸成・定着していない ・観光施設・スポットへのアクセスと施設間のアクセスが悪い（公共交通がない、駐車場がない等） ・地域資源のPR・活用が不十分 ・森町や遠州の小京都をPRする核がない ・観光のきっかけ・目的となる「温泉資源」がない ・ゆるキャラ「いしぼん」（「森の石松」がモデル）の公的活用ができない ・新たな動き・モノを否定する風潮 ・インターネット環境（Wi-fi等）が脆弱
	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
外部要因	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの新東名高速道路のIC（森掛川・遠州森町スマートIC）によるアクセス性の向上 ・5つの鉄道駅（遠州森・戸綿・遠江一宮・森町病院前・円田）と天浜線の文化財登録 ・自然観光、歴史・文化観光の関心度が高い ・グルメ・食の関心度が高い ・ストレス逃避、リラックスなど癒しを求める傾向が強い ・内陸フロンティア構想を生かした観光振興のチャンス ・アウトドア・バーベキュー人気によるアウトドア施設等の利用拡大 ・森町のメディア露出の拡大 ・静岡県西部地域における観光機会の増大（大河ドラマ、ラグビーワールドカップ等） ・ジビエブームによる機会拡大 ・パワースポットブームによる機会拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による観光市場の変化 ・他の観光地との競争激化 ・イベントの乱立による効果の低下 ・公共交通の便が悪いゆえの客離れ ・「小京都」よりもオンリーワン志向（小京都というブランド力の低下）

※茶文字…第1回 遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会（平成28年11月24日（木））における意見より。

(6) クロス SWOT 分析表

SWOT 分析の結果から、「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」を組み合わせ、取組の方向性を整理しました。

表. クロス SWOT 分析表

	強み (S)	弱み (W)
機会 (O)	<p>強み×機会 …強みを最大限に活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史文化」や「自然」、「農」と「食」を組み合わせたプランの創出 ・豊かな農産物を活かした「食」関連の商品開発 ・新東名高速道路利用者や沿道自治体を対象とした観光PRの強化 	<p>弱み×機会 …弱みで機会を逃さない(弱点克服)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の発信(「遠州の小京都」の由縁や歴史文化等の地域資源) ・観光客の受け入れ体制の強化(ハード・ソフト) ・重点市場・ニーズの調査研究
脅威 (T)	<p>強み×脅威 …強みで脅威を克服(差別化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然資源や歴史文化資源、伝統文化の保全・継承 ・「遠州の小京都・森町」のブランド確立 ・人材(財)の育成 	<p>弱み×脅威 …弱みで脅威を招かない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の都市との連携強化(花、歴史、神社仏閣の探訪等) ・交通事業者等との連携強化

2-2 各団体へのヒアリングの実施（結果概要）

各団体（商工会、茶商組合、菓子組合、森山焼窯元、寺院関係、農協、観光ボランティアガイド）に対し、森町の観光に係る課題や今後の方向性、各団体ができそうな取組などについて、ヒアリングを行いました。その結果から、今の取組や課題に対応した「今後の方向性（①～⑳*）」を整理しました。

※「今の取組や課題など」の丸付数字は、「今後の方向性」との関連を示しています。

表. 各団体へのヒアリング結果概要

団体名	今の取組や課題など
森町商工会	<ul style="list-style-type: none"> ①「なぜ小京都?」、「どこが小京都?」という質問の回答に苦慮している。 ②町民、商店主・従業員の小京都に対する認識が不足している。 ③観光客はまち並みを求めており、現存する小京都を感じるまち並みは、残す必要があり、いかに残すか考える必要がある。 ④小京都を感じる演出が必要。 ⑤任意団体が取り組むイベント等の連携と小京都まちづくりの取組との連動が必要。 ⑥まちなかに、町屋や蔵を活用したもてなしの拠点（観光情報・休憩処）が必要。 ⑦森町 OB の積極的活用。（大都市圏での OB 会等、商品開発・PR。杭迫先生の活用）
森町茶商組合	<ul style="list-style-type: none"> ①「小京都」の質問への対応に苦慮している。 ⑧「遠州の小京都」としてPRすることは歓迎である。統一されたロゴ等は必要。 ⑨商品の地方発送などには、「森町のしおり」を作成・同梱し、町の紹介をしている。 ⑩来客対応として、お茶をふるまっている。 ⑪お茶とお菓子、森山焼等を合わせることで、他都市との差別化が図れる（すでに行っているが好評である）。 ⑬小京都をテーマとしたイベントの開催が必要。 ⑭中山間地域（太田川、アクティ森、友田家等）を訪れる方の取込と観光資源の積極的活用。
森町菓子組合	<ul style="list-style-type: none"> ①「小京都」の質問への対応に苦慮している。 ⑩来客対応として、お茶をふるまっている ⑫栗蒸し羊羹やみそまんじゅうの詰め合わせにより、個店のものをイベントなどでセット販売している。例えば、自慢の一品など、いろいろな企画が可能。 →詰め合わせ企画の際の、パッケージに、地図と観光情報を載せるなどの工夫をしたらどうか。 ⑯ブランド認定については、PR次第で認定の効果がある。ふじのくに新商品セレクションはPR効果があった。
森山焼窯元（中村・静邨・晴山・田米）	<ul style="list-style-type: none"> ①「どこに小京都があるのか?」という質問に苦慮している。 ⑥まちなかに、町屋や蔵を活用したもてなしの拠点（観光情報・休憩処）が必要。 ⑭陶房への見学は基本自由であり、お茶を出したり、説明したりしている。（不定休であり、事前の問合せがよい） ⑮お菓子やお茶をセットで送りたいというニーズが多く、セット販売は可能。（過去にセット販売したケースもあり、思った以上に反響あり） ⑮アクティ森を活用して、年1回くらいのイベントであれば、出張指導は可能である。（アクティ森に指導員がおり、調整が必要。）
寺院関係	<ul style="list-style-type: none"> ②小京都に対する意識・認識は低い。 ⑱御朱印や観光参拝、座禅や写経等の体験など、常時の対応は難しい。（イベント等の限定ならば、対応可能な寺院がある）

団体名	今の取組や課題など
農協	②町民の小京都に対する認識が不足している。 ⑬小京都フェアや農産物だけでは、集客の保証はない。 ⑰とうもろこし、治郎柿、お米については、「森の…」と標記することはできる。 ⑱各種イベントと農作物の旬の関係を改めて把握しておく必要がある。
観光ボランティアガイド	①「どこに小京都があるのか？」という質問に苦慮している。 ②小京都に対する意識・認識は低い。(小京都＝まちなかの町並み) ③現存する小京都を感じるまち並みは、残す必要がある。 ⑥まちなかに、拠点となる施設(観光ボランティアの活動拠点としても)が必要。(食事・喫茶・トイレが少なく、もてなしの体制が不十分。活性化が必要。) ⑲観光ボランティアの要請は、小國神社、大洞院等がほとんどであり、そこで完結してしまうため、まちなか・アクティ森などに周遊させる必要がある。 ⑳目的別(グルメや歴史散策など)の町歩きパンフレットがあるとよい。
今後の方向性	
①個店について、観光案内処として活用。観光パンフレットの設置。 ①遠州の小京都を説明(紹介)する案内看板等の設置(意識の醸成と知識の統一・深化) ②商店主や従業員等の小京都に関する知識・認識の向上。町民の意識向上。 ③現存する蔵などの保存に向けた取組の検討。所有者・地域・行政で、価値の再認識から保存・活用まで、協働による検討。 ④⑤任意団体によるイベント開催時期の調整と、小京都まちづくりを連動した小京都的演出の促進(お茶会・和菓子・着物など)。 ⑥小京都の案内、観光案内、特産品のPR等の機能を持った、まちなかへの観光拠点の設置検討(空家となった町屋や蔵の活用により、小京都を感じる空間とする)。 ⑦⑧杭迫先生の書による、「遠州の小京都・森町」ロゴタイプの作成検討。 ⑨地方発送等を活用した観光PR用「遠州の小京都」紹介チラシの作成検討。 ⑩遠州の小京都・森町流もてなしの促進。(お茶の振る舞い) ⑪お茶とお菓子、森山焼等のセット販売による遠州の小京都セットの企画促進。 ⑫菓子組合個店商品の詰め合わせによる遠州の小京都セットの企画促進。(セット販売時のPR用パッケージの開発も。) ⑬小京都をテーマとしたイベントの企画検討。 ⇐小京都をテーマとして、集客ができるか？(農協) ⑭森山焼の陶房見学の活用。 ⑮中山間地域の観光資源(アクティ森、太田川、友田家等)を活かした既存観光客を取り込む企画検討。(アクティ森を拠点としたイベントなど。例えば、アクティ森で森山焼体験・お茶会、友田家でお茶会等) ⑯県の制度の活用も含めた、森町の認定ブランドに関する研究。(農産物、お菓子など) ⑰旬の農産物を活用した、イベント等での森町のPR及びおもてなし。 ⑱寺院を活用したイベントの企画。(対応可能な寺院限定) ⑲イベントや小國神社等での臨時観光案内所の運営。 ⑲観光ボランティアガイドの組織強化(会員の増員)と育成(観光情報の共有ともてなしの心)。 ⑳目的別のまち歩きパンフレットの企画(見直し)。	

2-3 森町の観光まちづくりの課題

「森町の観光の課題分析（SWOT 分析）」と「各団体のヒアリング結果」を踏まえ、森町の観光まちづくりについての課題を整理しました。

○「遠州の小京都」まちづくりの浸透

来訪者に「小京都はどこ？」等と尋ねられた際に、回答に困るという意見が、どの団体からも寄せられています。また、「小京都」に対する認識が人によって異なっており、来訪者に対して統一的な回答・説明ができていない状況にあります。

特に、来訪者と接する機会が多い商店主やその従業員のほか、観光ボランティアガイド、観光施設等の従事者については、「遠州の小京都・森町」についての共通認識をもち、地域の資源をよく知り、誇りを持って「遠州の小京都」を意識したもてなしができるよう、「遠州の小京都」の由縁をはじめとした地域の資源等をとりまとめた「遠州の小京都まちづくり基本構想」の浸透が求められています。あわせて、町民への浸透により「遠州の小京都」まちづくりへの意識の醸成が重要です。

○「遠州の小京都・森町」の観光環境の向上

新東名高速道路の森掛川 IC、遠州森町スマート IC が設置され、観光の機会が増大しているものの、これまで観光地としてのまちづくりが進んでいないため、来訪者を迎え入れ、もてなす環境の整備が十分ではありません。

町内各所にある観光資源への案内看板をはじめ、小京都ゆかりの地等の由緒書のほか、来訪者を受け入れる駐車場や休憩所、トイレ、ICT 社会に対応した Wi-Fi 環境などが十分とはいえ、町内の宿泊施設は極端に少なく、飲食店、土産物店等も十分といえるものではありません。

また、「小京都」と呼ばれるがゆえに、古い町並みを連想し訪れる来訪者が多く、「小京都」に期待するイメージとギャップが生じているのが実情です。さらに、現状のままでは古い町屋や蔵の喪失は進行していくため、古い町並みの面影を残す重要な観光環境として、古い町屋や蔵の保全が望まれます。加えて、「森町之賦」や、重要無形文化財となっている小國神社・天宮神社・山名神社の 3 つの舞楽をはじめとする文化的な京都とのつながりについて、「遠州の小京都」の確固たる由縁として積極的に PR し、森のまつりや各地域のおまつりといった伝統的な祭事などとともに後世に継承していくことが重要です。

「遠州の小京都・森町」の観光振興を進めるためには、来訪者を受け入れる環境整備として、案内・受入・もてなしのための整備が必要であり、行政だけでなく民間の力も活用し、環境条件の向上が必要です。また、「遠州の小京都」のブランド・アイデンティティを確立する必要があります。

○ 観光・商工（物産）振興における体制・組織の確立

「森町産業祭」や「町並みと蔵展」、「森ほたる」等のイベントの開催にあたっては、各種団体とリーダーが活躍しているが、イベント同士の連動や「遠州の小京都」をテーマとしたもてなしなど、総合的・戦略的な推進・コーディネートができていないのが現状です。

また、年間 85 万人もの来客がある小國神社と 10 万人余の来客があるアクティ森が、本町の観光拠点となっていますが、観光案内所は、唯一、天竜浜名湖鉄道遠州森駅前に設置されているだけで、まちなかや他の観光施設への周遊を促す環境が整っておらず、あわせて観光ボランティアガイドの活用も、十分であるとはいえません。

「遠州の小京都」をテーマとした観光事業の多彩な展開や、観光と商工（物産）の連携と振興を推進するためには、森町観光協会や森町商工会等が中心となり、町内の観光・商工（物産）関係事業者や関連団体が力を集結して各種の事業を進め、事業主体間の相乗効果が発揮できるような体制づくりと組織の確立を進める必要があります。

○ 多様な地域資源を活かす商品（観光・物産）開発の推進

豊かな自然環境や歴史文化資源など、多彩な地域資源を持ちながらも、PR不足等、十分に活かされていません。また、それぞれの資源を磨き上げることが重要であり、埋もれている資源の発掘もあわせて行う必要があります。

季節や時期にあわせた地域資源の観光活用を推進するとともに、お茶や治郎柿、とうもろこし等の農産物のほか、お菓子、森山焼等を物産資源として組み合わせるなど、多彩な地域資源活用の工夫による着地型[※]の旅行商品の開発や、付加価値の高い商品（物産）の開発により、観光・商工（物産）の振興を図る必要があります。

[※]着地型…旅行者を受け入れる側の地域（着地）側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態

○ 情報発信力の強化による知名度・ブランド力の強化

新東名高速道路森掛川 IC、遠州森町スマート IC の開設等により、各種メディアで紹介される機会が増えたものの、静岡県内においても依然として知名度が低いのが実情です。また、農産物、お菓子、森山焼といった多彩で豊富な物産資源が存在しますが、森町や遠州の小京都のブランドとして定着しているものは少ないです。

自らの魅力を効果的にアピールすることや情報発信力を強化することで、対外的な知名度や地域のブランド力を強化する必要があります。さらには、旅行商品や物産資源の付加価値を高め、集客力の増大や経済効果の増進につながることを期待されます。

○「遠州の小京都」を活かした観光・商工（物産）振興の活動を展開する拠点機能の創出

「遠州の小京都」と呼ばれてはいるが「小京都」を連想するような積極的な町並みの整備はされておらず、「小京都」を期待して訪れる観光客がそのギャップに失望しているという意見が寄せられているとともに、また、現状としてまちなかには観光案内のための施設がないため、十分なおもてなしや「遠州の小京都」の案内ができていません。このようなことから、まちなかの町屋や蔵を活用した「小京都」を見て感じられる、観光・物産振興の活動の中心となる拠点の整備の必要性について、各種団体から意見が挙がっています。

来訪者に対する案内機能の拠点となるとともに、観光商品や物産の紹介、販売の機能も有し、観光・物産情報を提供しつつ、観光のニーズを収集するアンテナ機能も備えるなど、観光・物産の振興活動の拠点であり、観光案内拠点であると同時に、「小京都」を感じられる空間として、町屋や蔵を活用した拠点機能の創出が求められます。

3 森町の観光まちづくり戦略

3-1 遠州の小京都まちづくり戦略の柱

このまちづくり戦略は、「森町の観光まちづくりの課題」に対応した以下のような柱のもとで構成します。

「遠州の小京都・森町」を広くPRし、町の活性化（観光振興・産業振興）を図るべく、環境、商品、ブランド力、拠点、組織・体制、人（材）をつくることを柱に据え、各方策を位置づけます。

森町の観光まちづくりの課題

- 「遠州の小京都」まちづくりの浸透
- 「遠州の小京都」にふさわしい観光環境の向上
- 観光・商工（物産）振興における体制・組織の確立
- 多様な地域資源を活かす商品（観光・物産）開発の推進
- 情報発信力の強化による知名度・ブランド力の強化
- 「遠州の小京都」を活かした観光・商工（物産）振興の活動を展開する拠点機能の創出



遠州の小京都まちづくり戦略の柱

- (1) 環境づくり
- (2) 商品づくり
- (3) ブランド力づくり
- (4) 拠点づくり
- (5) 組織・体制づくり
- (6) 人づくり

3-2 遠州の小京都まちづくり戦略

(1) 環境づくり

- 本町の玄関口となる新東名高速道路森掛川 IC や遠州森町スマート IC、天竜浜名湖鉄道遠州森駅などから、観光スポットを案内する案内標識等のサイン整備を進めていく。
- 「遠州の小京都」に関連する観光スポットについては、由緒書を整備し、「遠州の小京都」巡りが可能となるようなネットワークを形成する。また、各地区における神社仏閣や祭事、優れた景観スポットなど、地域が誇れるものを地域資源として磨き上げ、魅力を育て発信していく。
- 「遠州の小京都」から来訪者が連想する古い町並みについては、年々喪失しているため、所有者や地域住民、町民全体が改めて価値を認識するための調査を実施し、古い町屋や蔵の価値の再認識と埋もれた地域資源の発掘を行う。これにより、町民の意識高揚による町屋や蔵の保全活動の推進を図るとともに、付加価値を高め集客力の向上につなげていく。
- 古い町並みを求めて訪れる観光客に対し、観光パンフレットに掲げられている「ここで京を感じるまち」をブランド・アイデンティティとして、「遠州の小京都」の由縁や京都との文化的つながりなど、「遠州の小京都」を説明する看板等を主要観光施設やまちなかに設置し、「遠州の小京都」流のおもてなしを実践していく。
- 来訪者を受け入れる施設環境として、観光スポット等への駐車場、休憩所・トイレ等の整備や ICT 社会に対応する Wi-Fi 環境の整備等については、既存施設や周辺の公共施設等の活用、民間事業者（商店等）との連携により、充実を図っていく。
- 各個店において、観光案内所としての機能を担うことができるよう、観光パンフレットの設置等により、観光案内の充実を図っていく。

[戦略のポイント]

- ・ 玄関口となる新東名高速道路のインターチェンジや駅などから、観光スポットまでの案内サイン整備
- ・ 「遠州の小京都」ゆかりの地における由緒書等の案内看板の整備
- ・ 古い町屋や蔵の価値を再認識するための調査及び保全活動の推進
- ・ 主要観光施設やまちなかなどへの「遠州の小京都」の説明看板の整備
- ・ 地域の観光資源の掘り起しと P R
- ・ 既存公共施設や民間事業者との連携による観光スポット等への駐車場、休憩所・トイレ・Wi-Fi 環境等の整備・充実
- ・ 各個店における観光案内機能の充実

(2) 商品づくり

- 森林や太田川、三倉川などの豊かな自然資源、小國神社、大洞院に代表される神社仏閣のほか、秋葉街道の宿場町の面影を残す常夜灯や町屋・蔵等の歴史資源に加え、アクティ森、森山焼の窯元等の様々な地域資源の観光的な活用を進めるため、魅力の発信とあわせて、これらを最大限に活かす着地型の観光商品として開発していく。
- 多数の地域資源を巡る魅力ある観光コースの提供に加え、お茶や治郎柿、とうもろこし等の旬の農産物、梅衣や栗蒸しようかん等の和菓子、森山焼といった物産資源を組み合わせることにより、例えば、「森山焼の窯元見学と陶芸体験」、「新茶を森山焼でいただくお茶会」、「旬の農の恵みの収穫体験・食す」など、体験型・交流型の観光商品の開発を進めていく。特に、四季折々で楽しめる花めぐりや祭事、定期開催のイベントとの連携を図っていくことで、付加価値を高めていく。
- 事業者の相互連携を強化し、お茶とお菓子と陶器など、関係性の深い物産資源の組み合わせにより、来訪者にとってメリットのあるセットサービス商品の開発、提供を進めていく。
- 京都とのつながりを活かし、京都の老舗や有名店等とのコラボレーション商品の開発により、京都との関係性をPRし、「遠州の小京都」の付加価値を高めていく。
- 商品開発・改良等にあたっては、産学官のネットワークを有効に活用し、高い付加価値の創出・向上を図っていく。



森の茶・和菓子・森山焼

[戦略のポイント]

- ・自然資源、歴史資源、文化資源を活かした体験型・交流型の着地型観光商品の開発
- ・四季のイベント、祭事等との連携による高付加価値化
- ・農商工、産学官連携による観光商品、地域産品の創出
- ・京都とのつながりをPRする京都の老舗・有名店等とのコラボレーション商品の開発

(3) ブランドづくり

○平成 24 年 11 月に加盟した全国京都会議を通じて、全国に「遠州の小京都」として発信するとともに、新東名高速道路の森掛川 IC と遠州森町 PA 及びスマート IC の交通環境を活かし、沿線の都市などに「遠州の小京都・森町」の知名度を高めていくため、新東名高速道路の休憩施設を活用して本町の魅力を発信していく。

○インターネットを通じたアクセスへの対応力強化のため、観光協会による「遠州の小京都」と観光情報を発信するサイトを作成するほか、商工会等各種団体のホームページと相互リンクするなど、情報基盤の強化を図っていく。また、各種団体の SNS を活用した、鮮度の高い情報提供を行っていく。

○積極的な投げ込み（プレスリリース）により、様々な情報媒体を通じて、本町の魅力を発信し、「遠州の小京都・森町」の知名度を高めていく。

○各種観光物産展等の場を活用し、森町を連想させる物産となるよう、物産資源を発信していく。また、セットサービス等の企画商品については、PR 効果の高いパッケージの制作など、「遠州の小京都・森町」を効果的に発信する工夫により、ブランドづくりを行っていく。

○物産と「遠州の小京都」をつなぎ、イメージづけるため、「遠州の小京都・森町」を紹介するチラシやポストカードを企画・制作し、物産等の地方発送やお土産品に同梱することで、観光情報を発信するとともに、物産及び「遠州の小京都」のブランドづくりを行っていく。

○各種観光物産展等への参加にあたり、「遠州の小京都・森町」を PR するポスター、のぼり旗等の制作により、PR 活動の効果を高めていく。制作にあたっては、本町出身の書家・杭迫柏樹先生の協力を得て「遠州の小京都・森町」のロゴタイプを制作するなど、統一的なデザインを用いることで、イメージアップ・ブランド力の強化を図っていく。



観光パンフレット
「遠州の小京都森町」

[戦略のポイント]

- ・全国京都会議を活用した「遠州の小京都・森町」の積極的情報発信
- ・新東名高速道路の S A ・ P A を活用した沿線市町への積極的な観光情報の発信
- ・インターネットを通じた観光・物産情報の提供体制の強化
- ・マスコミ等を通じた本町の紹介情報の積極的発信
- ・観光物産展等による物産資源の PR と「遠州の小京都」ブランドの強化
- ・ブランド PR のためのロゴタイプやポスター、のぼり旗等の制作・活用

(4) 拠点づくり

- 観光振興・物産振興の拠点となる機能を創出し、来訪者に対する案内機能、観光商品・物産の紹介・販売の機能も併せ持つ拠点として、整備を検討していく。また、各種情報を発信しつつ、観光の現場として観光ニーズを収集するアンテナ機能も形成していく。整備にあたっては、現在、まちなかにない機能であることを踏まえ、空き家となっている町屋や蔵の活用により、「遠州の小京都」を見て・触れて・感じられる空間を演出するとともに、お茶やお菓子等のサービスによるもてなしを行うなど、「遠州の小京都」まちづくりの拠点として発信していく。
- 拠点については、観光ボランティアガイドの活動拠点とするとともに、地域のまちづくり活動の場や、観光関連事業者の交流の場に活用するなど、常時利用され、まちなかに活気を生み出す施設となるよう、活用方法についても検討していく。
- 多くの来訪者を集める小國神社や各種イベント等において、臨時的観光案内所を設置・運営し、案内機能の拡充を図っていく。

[戦略のポイント]

- ・町屋や蔵の活用による「遠州の小京都」を演出した、まちなかにおける観光案内、観光商品・物産の販売の拠点の創出
- ・拠点における多目的活用方法の検討
- ・小國神社や各種イベントにおける臨時観光案内所の設置・運営

(5) 組織・体制づくり

- 「遠州の小京都まちづくり」の推進においては、「観光振興」と「物産振興」が両輪となる。それぞれの主体となる「森町観光協会」と「森町商工会」が連携を強化し推進していく。
- 物産振興については、本町の物産資源であるお茶や治郎柿、とうもろこし等の農産物、梅衣や栗蒸しようかんなどのお菓子、工芸品の森山焼等の各事業者が、組織的連携が図れるよう、それぞれの事業者代表や関係者で組織された「遠州の小京都まちづくり推進会議（作業部会）」を定期的な連絡・調整の場として活用していく。
- 「町並みと蔵展」や「森ほたる」、「ぶぶぶの日」などの各地で開催されているイベントを運営する組織や「明神通り振興会」など、町民等を主体としたまちづくり活動組織を把握するとともに、組織同士の連携が図れる場や機会を創出する。また、これらの組織と連携・連動により、「遠州の小京都」が感じられるもてなしを実施していく。



遠州の小京都まちづくり推進会議
(平成28年度作業部会)

[戦略のポイント]

- ・ 森町観光協会と森町商工会の連携強化
- ・ 遠州の小京都まちづくり推進会議（作業部会）の、遠州の小京都まちづくり推進の連絡・調整の場としての活用
- ・ まちづくり活動組織の連携の場・機会の創出
- ・ まちづくり活動組織の連動による、「遠州の小京都」流もてなしの実施

(6) 人づくり

- 来訪者と接する機会が多い商店主やその従業員のほか、観光ボランティアガイド、観光施設等の従事者に対し、「遠州の小京都まちづくり」の浸透ともてなしの心の醸成を図るための啓発・教育活動を展開する。具体的には、「遠州の小京都」の由縁をはじめ、地域資源、物産などの情報のほか、もてなしの心得などをまとめた「（仮称）遠州の小京都おもてなしガイドライン」を作成・周知し、もてなし力を強化する。
- 本町の観光案内の機能を担ってきた観光ボランティアガイドについて、「（仮称）遠州の小京都おもてなしガイドライン」によるもてなし力の強化に努めるとともに、活動の維持、拡大に向けた新たな人材育成を進めていく。
- 町民がまず「遠州の小京都」をよく知り、来訪者を案内できる力を育てていけるよう、「遠州の小京都まちづくり基本構想」や「（仮称）遠州の小京都おもてなしガイドライン」の活用により、もてなしの意識醸成ともてなし力の強化を図っていく。
- 全町民が森町の宣伝マンとして、町民の積極的なイベント参加や、地元の物産品の消費を促進し、口コミを含め「遠州の小京都」の魅力についての発信力・宣伝力を高めていく。

[戦略のポイント]

- ・ 「（仮称）遠州の小京都おもてなしガイドライン」を作成・周知による、商店主、観光施設従事者等の「遠州の小京都」流もてなし力の強化
- ・ 観光ボランティアガイドの人材育成
- ・ 町民への「遠州の小京都」まちづくりの浸透ともてなし意識の醸成
- ・ 町民への地元物産品の消費奨励、啓発

4 遠州の小京都まちづくり計画

このまちづくり計画は、「遠州の小京都まちづくりの戦略」の柱に沿って、「遠州の小京都まちづくり基本構想」で示された「まちづくりの提案」を基に、優先度の評価*や「各種団体ヒアリング」の結果を踏まえ、短期的に推進すべき取組を「遠州の小京都まちづくり計画」として位置づけます。

※評価に関する詳細は、後述の「[参考]「遠州の小京都まちづくり計画」における取組の抽出について」を参照。

(1) 環境づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構想の位置づけ
		優先度高	緊急性高	ニーズ高	
玄関口となる新東名高速道路のインターチェンジや駅などから、観光スポットまでの案内サイン整備	町・観光協会	【実施中】			もてなす
「遠州の小京都」ゆかりの地における由緒書等の案内看板の整備	町	【実施中】			もてなす
古い町屋や蔵の価値を再認識するための調査及び保全活動の推進	[調査]: 町 [保全]: 個人・地域 (町)	◎		◎	継承する
既存公共施設や民間事業者との連携による観光スポット等への駐車場、休憩所・トイレ・Wi-Fi 環境等の整備・充実	町・観光協会・事業者等	◎			もてなす
主要観光施設やまちなかなどへの「遠州の小京都」の説明看板の整備	町・観光協会	◎			もてなす
各個店における観光案内機能の充実	事業者・商工会			◎	もてなす

(2) 商品づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される 取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構 想の位 置づけ
		優先度 高	緊急性 高	ニーズ 高	
「遠州の小京都・森町」を感じる各種観光コースの設定（四季の花めぐり、由緒ある神社仏閣巡り、町並みを観て歩くなどのコース）	推進会議（部会）・ 観光協会	【実施中】			発信する
「遠州の小京都・森町」を体験する観光プログラムの構築（森山焼の窯元見学・体験、森山焼でいただくお茶と和菓子（お茶会）、豊かな農の恵みを食すなどの体験プログラム）	推進会議（部会）・ 観光協会		○		発信する
お茶とお菓子と陶器など、関係性の深い物産資源の組み合わせによるセットサービス商品の開発	事業者・商工会・ 各種組合	【実施中】			発信する
京都とのつながりを活かした京都の老舗や有名店等とのコラボレーション商品の開発	推進会議（部会）・ 商工会・産学官連携	◎			発信する

(3) ブランドづくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される 取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構 想の位 置づけ
		優先度 高	緊急性 高	ニーズ 高	
全国京都会議を活用した「遠州の小京都・森町」の積極的情報発信	町・観光協会	【実施中】			発信する
新東名高速道路のS A・P Aを活用した沿線市町への積極的な観光情報の発信	町・観光協会	【実施中】			発信する
「遠州の小京都・森町」の観光情報・物産情報を紹介するウェブサイトの開設、SNSの活用	町・観光協会・ 商工会	【実施中】			発信する
T V・雑誌・近隣市の情報誌等での「遠州の小京都・森町」特集など、マスメディアを活用した積極的な情報発信	町・観光協会・ 商工会	◎			発信する
観光物産展等による物産資源のP R	町・観光協会・ 商工会・各種組合	【実施中】			発信する
パッケージの工夫や商品へ梱包する「遠州の小京都」P Rチラシの作成による「遠州の小京都」ブランドイメージ力の強化	町・観光協会・ 商工会・各種組合・ 産学官連携			◎	発信する
ブランドP Rのためのロゴタイプやポスター、のぼり旗等の制作・活用	町・観光協会・ 商工会	◎		◎	発信する

(4) 拠点づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される 取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構 想の位 置づけ
		優先度 高	緊急性 高	ニーズ 高	
町屋や蔵の活用による「遠州の小京都」を演出した、まちなかにおける観光案内、観光商品・物産の販売の拠点の創出と多目的活用方法の検討	町・観光協会・ 商工会			◎	もてなす 継承する
小國神社や各種イベントにおける臨時観光案内所の設置・運営	観光協会・ 観光ボランティアガイド	【実施中】			発信する もてなす

(5) 組織・体制づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される 取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構 想の位 置づけ
		優先度 高	緊急性 高	ニーズ 高	
森町観光協会と森町商工会の連携強化	町・観光協会・ 商工会			◎	もてなす
遠州の小京都まちづくり推進会議(作業部会)の、遠州の小京都まちづくり推進の連絡・調整の場としての活用	町・観光協会・ 商工会・各種団体			◎	もてなす
まちづくり活動組織の連携の場・機会の創出	町・観光協会・ 各種団体			◎	もてなす
まちづくり活動組織の連動による、「遠州の小京都」的もてなしの実施	町・観光協会			◎	もてなす

(6) 人づくり

遠州の小京都まちづくりの取組	想定される 取組主体	優先度評価・ニーズ			基本構 想の位 置づけ
		優先度 高	緊急性 高	ニーズ 高	
「(仮称)遠州の小京都おもてなしガイドライン」を作成・周知による、商店主、観光施設従事者等の「遠州の小京都」流もてなし力の強化	町・観光協会	◎		◎	継承する もてなす
観光ボランティアガイドの人材育成	観光協会・ 観光ボランティアガイド		○	○	継承する もてなす
町民への「遠州の小京都」まちづくりの浸透ともてなし意識の醸成	町・観光協会	◎			継承する もてなす
町民への地元物産品の消費奨励、啓発	商工会			◎	継承する もてなす

5 参考資料

5-1 活動経過

開催日等	活動内容
H28.11.24	第1回 遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会 ○遠州の小京都まちづくり推進会議について ○森町の観光の概要について ○森町の観光の課題分析
H28.12.15	第2回 遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会 ○まちづくりの提案における取組の評価について ○まちづくりの取組主体について
H29.1.18~2.1	各団体ヒアリング 1.18 森町菓子組合、1.19 観光ボランティアガイド 1.20 寺院関係、1.27 森山焼窯元 2.1 森町商工会、森町茶商組合、農協
H29.3.17	第3回 遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会 ○遠州の小京都まちづくり基本計画について
H29.4.26	遠州の小京都まちづくり推進会議 ○遠州の小京都まちづくり基本計画について

5-2 会員名簿

(1) 遠州の小京都まちづくり推進会議

所 属		氏 名
森町	副町長	鈴木 寿一
	企画財政課長	長野 了
	建設課長	村松 弘 (H28) 中村 安宏 (H29)
森町議会	議長	片岡 健 (H28)
森町観光協会	会長	秋山 成光
	副会長	小倉 豊寿
	副会長	大場 孝尙
森町観光ボランティア	会長	柏田 清
森町商工会	会長	山本 充喜
神社仏閣関係	小國神社 宮司	打田 文博
	全生寺 住職	高綱 宗純
森町茶商組合	組合長	鳶 謙造
森町菓子組合	組合長	浅岡 英明 (H28) 中島 基 (H29)
森山焼	代表	鈴木 俊二
森町文化協会	会長	林 昭光
森町教育委員会	社会教育課長 社会教育課 技監	鈴木富士男 (H28) 北島 恵介 (H29)
学識経験者	静岡産業大学	熊王 康宏

(2) 遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会

所 属		氏 名
森町観光協会	地域デザイン	山崎 直哉
	久米吉	倉島 正二
	古澤屋	宮崎 雄二
森町観光ボランティアガイド		山田 勝恵
森町商工会		佐藤千代子
神社仏閣関係	小國神社	土屋 克彦
	全生寺	高綱 宗純
森町茶商組合	青年団長	長田 夏海
森町菓子組合	菓匠あさおか	浅岡 英明
森山焼		田米 和好
森町文化協会		伊藤 美鈴
観光施設	アクティ森	井浦 伸幸
学識経験者	静岡産業大学	熊王 康宏
森町教育委員会	社会教育課	北島 恵介
	社会教育課文化振興係	加藤 雄一
森町企画財政課	企画係	鈴木 知寿
森町建設課	都市整備係	森下 友幸

(3) 事務局

所 属		氏 名
森町産業課	課長	三浦 強 (H28) 村松 達雄 (H29)
	課長補佐	松浦 博
	商工観光係 係長	福島 光英
	商工観光係	川合 和代
	商工観光係	森田 真琴
	商工観光係	大場 有紗 (H29)

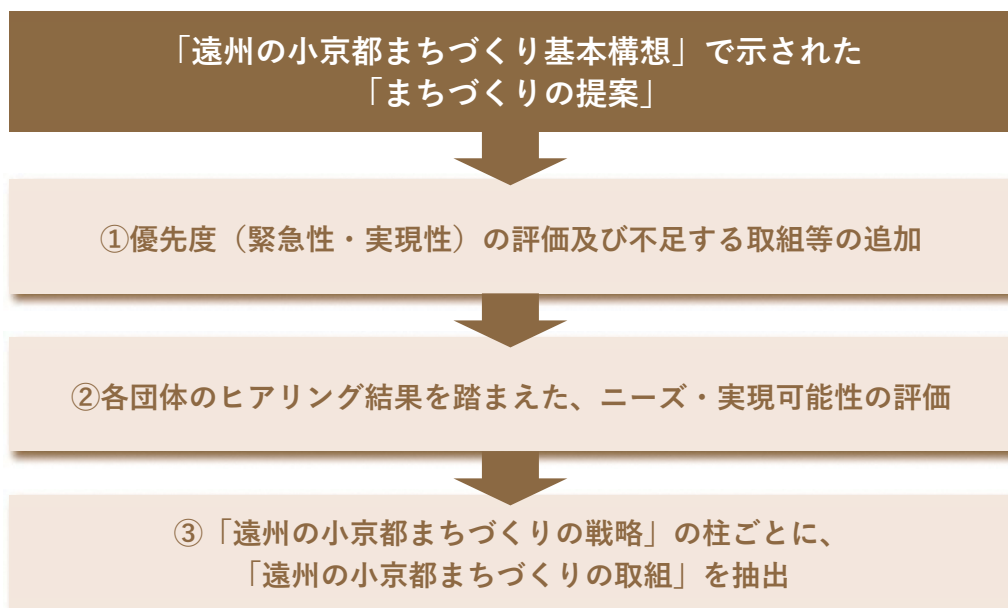
資料編

(資料編)

1 「遠州の小京都まちづくり計画」における 取組の抽出について

(1) 抽出のフロー

「遠州の小京都まちづくり基本構想」で示された「まちづくりの提案」を基に、遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会にて、評価・検討しました。



(2) 「遠州の小京都まちづくり基本構想」で示された「まちづくりの提案」

◆ みんなで『遠州の小京都・森町』を継承するために…

取り組みの方向	具体的な方法・手段の提案
「遠州の小京都」を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都・森町」の歴史・歩み・伝統文化の意味などを、こどもから大人までわかりやすく学べるパンフレット・読本づくり ● 「遠州の小京都・森町」のインパクトやイメージを具体的に伝えるイベントの実施（小京都三十六景の募集・選定、小京都写真展、森町之賦書道展、遠州の小京都検定、遠州の小京都かるたの制作・大会の開催など）
「遠州の小京都」を意識した啓発活動（教育など）	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都」の価値や資源を認識・発掘するための調査等の実施 ● 「遠州の小京都」の伝統文化を伝承するための仕組みづくり・人材づくり（森町の歴史や言い伝え、舞楽やまつり文化などを学ぶ授業や伝承教室の実施など）
舞楽やまつり文化の伝承	
伝統的産業の継承	

◆ みんなで『遠州の小京都・森町』を発信するために…

取り組みの方向	具体的な方法・手段の提案
「遠州の小京都」のPR	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都・森町」を観光の視点で楽しめる旅本づくり ● 「遠州の小京都・森町」のPRポスターの制作 ● TV・雑誌・近隣市の情報誌等での「遠州の小京都・森町」特集など、マスメディアを活用したPRの実施 ● 「遠州の小京都・森町」を紹介するウェブサイトの開設、SNSの活用 ● 「遠州の小京都・森町」にまつわるイベントの開催（森のまつりや舞楽に関する展示・披露など） ● 「全国京都会議」を通じたPR強化と加盟都市との連携・交流の推進 ● 「遠州の小京都・森町ブランド」・「ロゴマーク」の確立（「遠州の小京都・森町百選」などブランド認定制度とPRするロゴマークの制作） ● 「遠州の小京都・森町」のファンづくり（ファンクラブの設置）
「遠州の小京都」にまつわる観光コースや体験プログラムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都・森町」を感じる各種観光コースの設定（四季の花めぐり、由緒ある神社仏閣巡り、町並みを観て歩くなどのコース） ● 「遠州の小京都・森町」を体験する観光プログラムの構築（森山焼の窯元見学・体験、森山焼でいただくお茶と和菓子（お茶会）、豊かな農の恵みを食すなどの体験プログラム）

◆ みんなが『遠州の小京都・森町』でもてなすために…

取り組みの方向	具体的な方法・手段の提案
「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 「遠州の小京都・森町」条例などの町並み保全のルールづくり ● 「遠州の小京都・森町」を代表する特色のある町並みの復元、小京都にふさわしい景観づくり
「遠州の小京都」ゆかりの地の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 小京都ゆかりの地・神社・寺院等への由緒書の整備、案内サインの設置 ● 蔵などを活用した「遠州の小京都・森町」観光の拠点整備 ● 古民家などを活用した「遠州の小京都・森町」宿泊施設等の観光機能の充実 ● 「遠州の小京都・森町案内人」（観光ガイド）の育成・配置 ● 天竜浜名湖鉄道や新東名高速道路を活用した「遠州の小京都・森町」関連の企画・キャンペーン等 ● 「遠州の小京都・森町」ファンクラブを通じた交流活動の推進
「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実	
「遠州の小京都」を意識した商品でおもてなし	<ul style="list-style-type: none"> ● 森町の素材を活かし「遠州の小京都・森町」を意識した料理・お土産・お菓子などの開発 ● 「遠州の小京都・森町」観光コース・体験プログラムの商品化

(3) まちづくりの提案における取組の優先順位・取組主体の検討結果

(第1回遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会より)

取組みの方向	具体的な方法・手段	緊急性評価	実現性評価	優先度評価	取組主体
「遠州の小京都」を学ぶ	1 「遠州の小京都・森町」の歴史・歩み・伝統文化の意味などを、子どもから大人までわかりやすく学べる/インフレット・読本づくり	1.5	1.9	◎	町
	2 「遠州の小京都・森町」のインバウトやイメージを具体的に伝えるイベントの実施(小京都三十六景の募集・選定、小京都写真展、森町之賦書道展、遠州の小京都検定、遠州の小京都かるたの制作・大会の開催など)	2.1	2.1		
「遠州の小京都」を意識した啓発活動(教育など)	3 「遠州の小京都」の価値や資源を認識・発掘するための調査等の実施 町並み保存の為に中心部の住民からの意見の調査、聞き取り(建物所有者)	1.8	1.9	◎	町
舞楽やまつり文化の伝承	4 「遠州の小京都」の伝統文化を伝承するための仕組みづくり・人材づくり	2.3	2.5		
伝統的産業の継承	5 (森町の歴史や言い伝え、舞楽やまつり文化などを学ぶ授業や伝承教室の実施など)	2.3	2.5		
「遠州の小京都」のPR	6 「遠州の小京都・森町」を観光の視点で楽しめる旅本づくり 四季折々の農産物とれたて情報、花めぐり見どころ情報、商店アピール情報を分かり易く見たいなるパンフ、小京都カレンダー(花火、2万人まつり) 小国神社にはすでに多くの方が訪れているので、もう一つでも他を回ってみようと思ってもらい、年間何度も森町に来町する楽しみを手伝う 「遠州の小京都・森町」の写真集の作成(魅力ある景観など)	2.1	2.1		観光協会
	7 「遠州の小京都・森町」のPRポスターの制作	1.8	1.7	◎	観光協会
	8 TV・雑誌・近隣市の情報誌等での「遠州の小京都・森町」特集など、マスメディアを活用したPRの実施	1.7	2.1	◎	町
	9 「遠州の小京都・森町」を紹介するウェブサイトの開設、SNSの活用 SNSの活用で森町での体験や見つけた良い所を外から来た人(観光客)に発信してもらい、(募集して招待する)	1.5	1.7	◎	商工会 観光協会
	10 「遠州の小京都・森町」にまつわるイベントの開催(森のまつりや舞楽に関する展示・披露など)	2.5	2.5		
	11 「全国京都会議」を通じたPR強化と加盟都市との連携・交流の推進	2.8	2.3		
	12 「遠州の小京都・森町ブランド」・「ロゴマーク」の確立(「遠州の小京都・森町百選」などブランド認定制度とPRするロゴマークの制作)	2.5	2.3		
	13 「遠州の小京都・森町」のファンづくり(ファンクラブの設置)	2.7	2.1		
「遠州の小京都」にまつわる観光コースや体験プログラムの構築	14 「遠州の小京都・森町」を感じる各種観光コースの設定(四季の花めぐり、由緒ある神社仏閣巡り、町並みを観て歩くなどのコース)	1.5	1.6	◎	
	15 「遠州の小京都・森町」を体験する観光プログラムの構築(森山焼の窯元見学・体験、森山焼でいただくお茶とお菓子(お茶会)、豊かな農の恵みを食すなどの体験プログラム)	1.6	1.8	◎	部会で検討
「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観整備	16 「遠州の小京都・森町」条例などの町並み保全のルールづくり	1.7	2.3	○	
	17 「遠州の小京都・森町」を代表する特色のある町並みの復元、小京都にふさわしい景観づくり	2.1	3.1		
「遠州の小京都」ゆかりの地の整備	18 小京都ゆかりの地・神社・寺院等への由緒書の整備、案内サインの設置 秋葉街道(秋葉信仰)の宿場町として栄えていたので、その観点での拠点づくり 集落、他地域との連携につなげる きれいなとかよく整ったとかを景観対策で目指さない ※リアルでかざらない森町を気に入っている人もいる 町で道の駅を造る 温泉、宿泊施設	1.6	2.2	◎	町
	19 蔵などを活用した「遠州の小京都・森町」観光の拠点整備	2.1	2.7		
	20 古民家などを活用した「遠州の小京都・森町」宿泊施設等の観光機能の充実	2.4	3.1		

取り組みの方向		具体的な方法・手段	緊急性評価	実現性評価	優先度評価	取組主体
「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実	21	「遠州の小京都・森町案内人」(観光ガイド)の育成・配置	2.0	2.4	○	
	22	天竜浜名湖鉄道や新東名高速道路を活用した「遠州の小京都・森町」関連の企画・キャンペーン等	2.1	2.1		町(実施中) パンフ配布
	23	「遠州の小京都・森町」ファンクラブを通じた交流活動の推進	2.6	2.2		
「遠州の小京都」を意識した商品でおもてなし	24	森町の素材を活かし「遠州の小京都・森町」を意識した料理・お土産・お菓子などの開発	2.0	2.3	○	
	25	「遠州の小京都・森町」観光コース・体験プログラムの商品化	2.0	2.3	○	
「遠州の小京都」のPR (再掲)	26	商品開発による現代の京都との連携強化(京都の老舗・有名店等とのコラボレーションした商品の開発等) 現在の京都とのつながりを作る(商品開発)コラボ	1.6	1.6	◎	町・大学の連携
「遠州の小京都」まちづくりを推進する組織づくり	27	遠州の小京都まちづくり全体をコーディネートする組織づくりと、各種取組を推進する組織づくり 取組内容を継続して推進する組織の設置 森町、小京都クラブ(仮)など	2.5	2.2		
「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実 (再掲)	28	森町の特産品を使ってもてなす商店、飲食店の充実 お茶屋さん、菓子屋さん、喫茶部を充実させる 森町の特産品を使った料理を提供する店を増やし、誘客及びPRする 食べ歩きや立寄りができる店を町並みで出店する(統一した景観にするための補助も出す)	1.5	1.9	◎	部会で検討
「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観整備 (再掲)	29	「遠州の小京都」の風情や昔の懐かしさが感じられる演出 1日・15日のサイレンを「かね」の音にする	2.6	2.6		
「遠州の小京都」のPR (再掲)	30	市町のCMコンクールへの参加 PRの実施で市町のCM作成コンクールの参加	2.7	2.1		
「遠州の小京都」ゆかりの地の整備 (再掲)	31	国指定文化財(建造物)の指定による「遠州の小京都」の付加価値の増大 国指定の文化財(特に建造物)を増やす ※日本人は肩書に弱い 世界遺産ブーム等々	2.9	2.9		
森町への観光動向の調査・分析の実施	32	森町への観光動向の調査・分析の実施 ナビタイムジャパンと連携してビッグデータを用いた交通分析と観光行動分析を行い実態を把握する	2.5	2.4		
「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実 (再掲)	33	おもてなしのための施設(来訪者のための公衆トイレ、駐車場等)の整備 公衆トイレの改修、増設 ※観光地の印象をトイレは大きく左右する プレミアムトイレはほどこも話題になる 来訪者用の駐車場の整備 ※交通機関が弱いので自動車でのアクセスを向上させる	1.3	1.6	◎	町
「遠州の小京都」を訪れるきっかけづくり	34	来訪者を増やすきっかけとなる話題性の高い取組の推進(例えば、ポケストップの増加など) ポケストップの増加	2.1	2.2		
平均値			2.091	2.224		

※緊急性・実現性の評価について

●緊急性：対処すべき課題の重大さ ←検討を始めるタイミングに関係

●実現性：対策実施までに要する時間・労力の大小 ←検討プロセスに要する時間に関係

緊急性の分類

1：すぐに着手すべき
2：3年以内位に着手すべき
3：急がない
4：実施する必要はない

実現性の分類

1：短期（1～2年程度）で実施可能
2：中期（3～5年程度）で取組が必要
3：長期（5年以上）で取組が必要
4：実施は非常に困難

上記の考え方にに基づき、作業部会で評価し、評価結果の平均値を基準として判断した。

（4）優先度（緊急性及び実現性）の高い取組と取組主体（案）

（第1回遠州の小京都まちづくり推進会議作業部会より）

基本方針	取組の方向		具体的な方法・手段	取組主体（案）
継承する	「遠州の小京都」を学ぶ	1	「遠州の小京都・森町」の歴史・歩み・伝統文化の意味などを、こどもから大人までわかりやすく学べるパンフレット・読本づくり	町
	「遠州の小京都」を意識した啓発活動（教育など）	3	「遠州の小京都」の価値や資源を認識・発掘するための調査等の実施	町
発信する	「遠州の小京都」のPR	7	「遠州の小京都・森町」のPRポスターの制作	観光協会
		8	TV・雑誌・近隣市の情報誌等での「遠州の小京都・森町」特集など、マスメディアを活用したPRの実施	町 <u>観光協会</u> <u>商工会</u>
		9	「遠州の小京都・森町」を紹介するウェブサイトの開設、SNSの活用	商工会 観光協会
		26	<u>商品開発による現代の京都との連携強化（京都の老舗・有名店等とのコラボレーションした商品の開発等）</u>	町・大学の連携 <u>商工会</u>
	「遠州の小京都」にまつわる観光コースや体験プログラムの構築	14	「遠州の小京都・森町」を感じる各種観光コースの設定（四季の花めぐり、由緒ある神社仏閣巡り、町並みを観て歩くなどのコース）	推進会議（部会）で検討
15		「遠州の小京都・森町」を体験する観光プログラムの構築（森山焼の窯元見学・体験、森山焼でいただくお茶と和菓子（お茶会）、豊かな農の恵みを食すなどの体験プログラム）	推進会議（部会）で検討	

基本方針	取組の方向		具体的な方法・手段	取組主体
もてなす	「遠州の小京都」ゆかりの地の整備	18	小京都ゆかりの地・神社・寺院等への由緒書の整備、案内サインの設置	町
	「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実	28	<u>森町の特産品を使ってもてなす商店、飲食店の充実</u>	推進会議(部会)で検討
		33	<u>おもてなしのための施設(来訪者のための公衆トイレ、駐車場等)の整備</u>	町
		21	「遠州の小京都・森町案内人」(観光ガイド)の育成・配置	<u>観光協会</u> <u>団体</u> <u>町</u>
	「遠州の小京都」を意識した商品でおもてなし	24	森町の素材を活かし「遠州の小京都・森町」を意識した料理・お土産・お菓子などの開発	<u>商工会</u> <u>団体</u>
		25	「遠州の小京都・森町」観光コース・体験プログラムの商品化	<u>観光協会</u>
	「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観整備	16	「遠州の小京都・森町」条例などの町並み保全のルールづくり	<u>町</u> <u>地域</u>

※網掛けは、基本構想の「まちづくりの提案」から追加された事項。

青文字は、緊急性のみが高いもの（優先度：○）

(5) ニーズ・実現可能性を踏まえた短期的に取り組むべき取組

「優先度（緊急性及び実現性）の高い取組」と「各団体のヒアリング結果」を踏まえ、優先度に加え、ニーズが高い取組・実現可能性が低い取組を整理しました。

基本方針	取組の方向		具体的な方法・手段	取組主体(案)	実現可能性	ニーズ
継承する	「遠州の小京都」を学ぶ	1	「遠州の小京都・森町」の歴史・歩み・伝統文化の意味などを、こどもから大人までわかりやすく学べるパンフレット・読本づくり ⇒来訪者への説明ができるように。	町		◎
	「遠州の小京都」を意識した啓発活動(教育など)	3	「遠州の小京都」の価値や資源を認識・発掘するための調査等の実施	町		○
発信する	「遠州の小京都」のPR	7	「遠州の小京都・森町」のPRポスターの制作 ⇒杭迫先生の書を活用するなど統一的なものがあるとよい。 ⇒地方発送時などに活用できるPR用チラシの検討。	観光協会		○
		8	TV・雑誌・近隣市の情報誌等での「遠州の小京都・森町」特集など、マスメディアを活用したPRの実施	町 <u>観光協会</u> <u>商工会</u>		
		9	「遠州の小京都・森町」を紹介するウェブサイトの開設、SNSの活用	商工会 観光協会		◎
		26	<u>商品開発による現代の京都との連携強化(京都の老舗・有名店等とのコラボレーションした商品の開発等)</u>	町・大学の連携 <u>商工会</u>		

基本方針	取組の方向		具体的な方法・手段	取組主体(案)	実現可能性	ニーズ
発信する	「遠州の小京都」にまつわる観光コースや体験プログラムの構築	14	「遠州の小京都・森町」を感じる各種観光コースの設定（四季の花めぐり、由緒ある神社仏閣巡り、町並みを観て歩くなどのコース） ⇒各種イベント、祭事との連携が必要。	推進会議（部会）で検討		
		15	「遠州の小京都・森町」を体験する観光プログラムの構築（森山焼の窯元見学・体験、森山焼でいただくお茶と和菓子（お茶会）、豊かな農の恵みを食すなどの体験プログラム）	推進会議（部会）で検討		
もてなす	「遠州の小京都」ゆかりの地の整備	18	小京都ゆかりの地・神社・寺院等への由緒書の整備、案内サインの設置 ⇒遠州の小京都を説明するものも必要。	町		◎
	「遠州の小京都」のおもてなし体制の充実	28	<u>森町の特産品を使ってもてなす商店、飲食店の充実</u> ⇒現実的に難しい。ただし、個店でのお茶のサービスを実施中。	推進会議（部会）で検討	▲	
		33	<u>おもてなしのための施設（来訪者のための公衆トイレ、駐車場等）の整備</u> ⇒小京都を感じる町屋や蔵を活用したもてなしの拠点が必要。	町		◎
		21	「遠州の小京都・森町案内人」（観光ガイド）の育成・配置 ⇒集客の多い時期の小國神社などへ臨時の観光案内所を設置。	<u>観光協会</u> <u>団体</u> <u>町</u>		○

基本方針	取組の方向		具体的な方法・手段	取組主体(案)	実現可能性	ニーズ
もてなす	「遠州の小京都」を意識した商品でおもてなし	24	森町の素材を活かし「遠州の小京都・森町」を意識した料理・お土産・お菓子などの開発 ⇒森町の特産品として新規の開発は難しい。セット販売等による商品化は限定実施中。	<u>商工会</u> <u>団体</u>	▲	
		25	「遠州の小京都・森町」観光コース・体験プログラムの商品化	<u>観光協会</u>		
	「遠州の小京都」を感じられる町並みや景観整備	16	「遠州の小京都・森町」条例などの町並み保全のルール作り ⇒なくなってしまう前に、保全に向けた取組を。	<u>町</u> <u>地域</u>		◎

※網掛けは、基本構想の「まちづくりの提案」から追加された事項。

青文字は、緊急性のみが高いもの（優先度：○）

2 観光の概況の整理

2-1 森町を取り巻く環境の変化

(1) 森町を取り巻く環境の変化

近年、新東名高速道路の開通など、森町を取り巻く環境が大きく変化しています。これまで森町になかった広域を結ぶ高速道路が開通し、IC が開設されたことが大きな好機となっています。

表. 森町を取り巻く環境の変化（年表）

年度	月（日）	出来事	備考
平成 21 年度	6 月（4 日）	富士山静岡空港開港	
平成 22 年度	12 月	天竜浜名湖鉄道が国登録有形文化財に登録	一宮川橋梁 遠江一宮本屋 遠州森町駅本屋及び上りプラットフォーム 太田川橋梁
平成 24 年度	4 月（14 日）	新東名高速道路（三ヶ日 JCT～御殿場 JCT の静岡県内区間）開通 森掛川 IC 開設 遠州森町 PA（上下線）開設	森掛川 IC～新静岡 IC：約 35 分 森掛川 IC～浜松浜北 IC：約 10 分
	11 月	全国京都会議に加盟	
	3 月（2 日）	ラグビーワールドカップ 2019 開催都市決定（袋井市・小笠山運動公園エコパスタジアム）	
平成 25 年度	7 月（3 日）	富士山世界遺産登録	
	9 月（8 日）	東京オリンピック 2020 開催決定	
平成 26 年度	3 月（14 日）	天竜浜名湖鉄道・森町病院前駅が開設	
	3 月（29 日）	新東名高速道路遠州森町 PA（上下線）にスマート IC 開設	
		「遠州の小京都まちづくり基本構想」検討・策定	
平成 27 年度	4 月（1 日）	町制 60 周年	ロゴマーク制定 森町賛歌制定
	6 月頃	「遠州の小京都まちづくり基本構想」を全戸配布	
	10 月（15 日）	森町総合体育館「森アリーナ」オープン	
	2 月（13 日）	新東名高速道路浜松いなさ JCT～豊田東 JCT 開通	名古屋方面とのアクセス性が向上
平成 28 年度		「遠州の小京都まちづくり基本計画」検討・策定	

(2) 近年の観光の動向

近年の観光の動向として、「旅行年報 2015」((公財) 日本交通公社) から「日本人の旅行に対する意識」について把握しました。なお、出典データは「旅行年報 2015」であり、「JTBF 旅行需要調査」(2014 年 7 月～2015 年 6 月) によるものです。

① 旅行の動機

旅行の動機は、「旅先のおいしいものを味わうため」が 52.8% と最も多く、続いて「ストレスからの逃避、リラックスのため」(51.4%)、「自然を鑑賞、体験するため」(49.2%)、「思い出を作るため」(43.1%) となっています。

「旅先のおいしいものを味わうため」は、どの年代においても上位 3 位に入っており、特に女性の選択率が高くなっています。

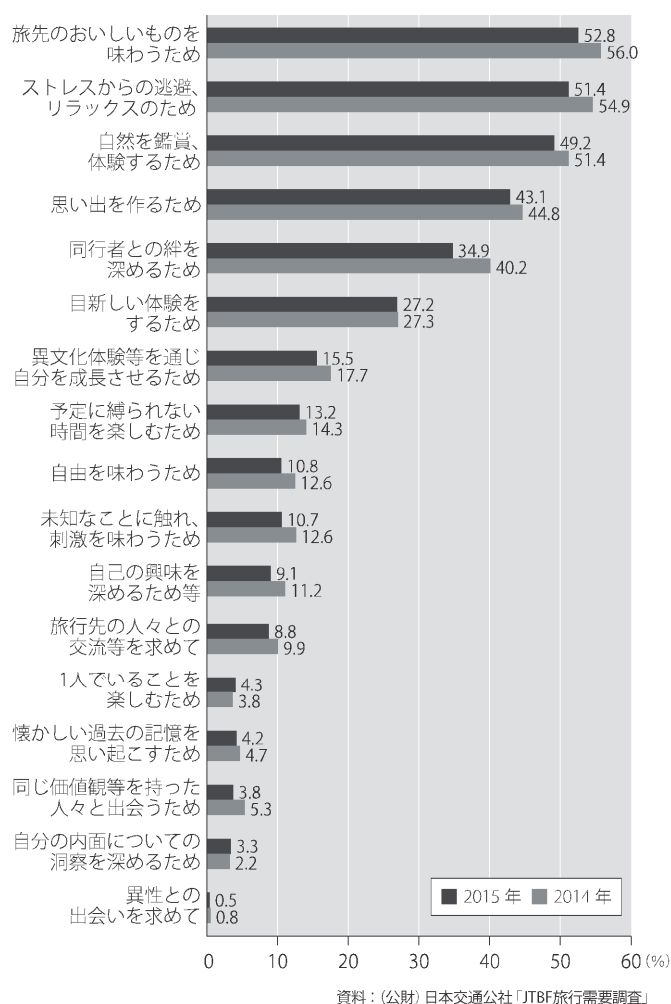


図. 旅行の動機 (複数回答・2015 年調査)

表. 性・年代別 旅行の動機 (複数回答・2015年調査)

(単位: %)

20代 男性		
1位	ストレスからの逃避、リラックスのため	48.7
2位	思い出を作るため	44.7
3位	旅先のおいしいものを味わうため	43.4
4位	目新しい体験をするため	39.5
5位	自然を鑑賞、体験するため	36.8
6位	同行者との絆を深めるため	22.4
7位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	15.8
8位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	14.5
9位	予定に縛られない時間を楽しむため	14.5
10位	なんとなく	14.5

(単位: %)

(単位: %)

20代 女性		
1位	ストレスからの逃避、リラックスのため	69.9
2位	旅先のおいしいものを味わうため	65.8
3位	思い出を作るため	61.6
4位	自然を鑑賞、体験するため	56.2
5位	目新しい体験をするため	43.8
6位	同行者との絆を深めるため	30.1
7位	自己の興味を深めるため等	21.9
8位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	20.5
9位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	19.2
10位	自由を味わうため	16.4

(単位: %)

(単位: %)

30代 男性		
1位	ストレスからの逃避、リラックスのため	59.8
2位	思い出を作るため	59.8
3位	旅先のおいしいものを味わうため	49.5
4位	同行者との絆を深めるため	46.4
5位	目新しい体験をするため	38.1
6位	自然を鑑賞、体験するため	36.1
7位	自由を味わうため	16.5
8位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	13.4
9位	予定に縛られない時間を楽しむため	13.4
10位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	8.2

(単位: %)

(単位: %)

30代 女性		
1位	思い出を作るため	60.8
2位	ストレスからの逃避、リラックスのため	59.8
3位	旅先のおいしいものを味わうため	55.7
4位	自然を鑑賞、体験するため	46.4
5位	同行者との絆を深めるため	37.1
6位	目新しい体験をするため	30.9
7位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	19.6
8位	贅沢をしたいため	11.3
9位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	10.3
10位	予定に縛られない時間を楽しむため	10.3

(単位: %)

(単位: %)

40代 男性		
1位	ストレスからの逃避、リラックスのため	60.6
2位	旅先のおいしいものを味わうため	58.7
3位	同行者との絆を深めるため	52.3
4位	思い出を作るため	52.3
5位	自然を鑑賞、体験するため	49.5
6位	目新しい体験をするため	25.7
7位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	21.1
8位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	13.8
9位	予定に縛られない時間を楽しむため	11.9
10位	自由を味わうため	10.1

(単位: %)

(単位: %)

40代 女性		
1位	ストレスからの逃避、リラックスのため	68.6
2位	旅先のおいしいものを味わうため	62.9
3位	自然を鑑賞、体験するため	56.2
4位	思い出を作るため	52.4
5位	同行者との絆を深めるため	33.3
6位	目新しい体験をするため	30.5
7位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	20.0
8位	自由を味わうため	14.3
9位	予定に縛られない時間を楽しむため	14.3
10位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	11.4

(単位: %)

(単位: %)

50代 男性		
1位	ストレスからの逃避、リラックスのため	58.7
2位	自然を鑑賞、体験するため	56.5
3位	旅先のおいしいものを味わうため	47.8
4位	思い出を作るため	38.0
5位	同行者との絆を深めるため	31.5
6位	目新しい体験をするため	28.3
7位	予定に縛られない時間を楽しむため	16.3
8位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	14.1
9位	旅行には行かない	12.0
10位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	9.8

(単位: %)

(単位: %)

50代 女性		
1位	自然を鑑賞、体験するため	63.3
2位	旅先のおいしいものを味わうため	61.1
3位	ストレスからの逃避、リラックスのため	56.7
4位	思い出を作るため	42.2
5位	目新しい体験をするため	27.8
6位	同行者との絆を深めるため	26.7
7位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	16.7
8位	予定に縛られない時間を楽しむため	16.7
9位	自由を味わうため	10.0
10位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	10.0

(単位: %)

(単位: %)

60代 男性		
1位	自然を鑑賞、体験するため	59.4
2位	旅先のおいしいものを味わうため	50.0
3位	同行者との絆を深めるため	40.6
4位	ストレスからの逃避、リラックスのため	38.7
5位	目新しい体験をするため	20.8
6位	思い出を作るため	18.9
7位	予定に縛られない時間を楽しむため	17.0
8位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	13.2
9位	旅行先の人々との交流等を求めて	12.3
10位	自由を味わうため	9.4

(単位: %)

(単位: %)

60代 女性		
1位	旅先のおいしいものを味わうため	57.7
2位	自然を鑑賞、体験するため	47.7
3位	ストレスからの逃避、リラックスのため	43.2
4位	同行者との絆を深めるため	43.2
5位	思い出を作るため	33.3
6位	予定に縛られない時間を楽しむため	15.3
7位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	13.5
8位	目新しい体験をするため	10.8
9位	旅行には行かない	10.8
10位	自由を味わうため	9.9

(単位: %)

(単位: %)

70代 男性		
1位	自然を鑑賞、体験するため	46.3
2位	旅先のおいしいものを味わうため	37.5
3位	ストレスからの逃避、リラックスのため	30.0
4位	思い出を作るため	23.8
5位	同行者との絆を深めるため	22.5
6位	旅行には行かない	21.3
7位	目新しい体験をするため	16.3
8位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	11.3
9位	未知なことに触れ、刺激を味わうため	10.0
10位	懐かしい過去の記憶を思い起こすため	10.0

(単位: %)

(単位: %)

70代 女性		
1位	自然を鑑賞、体験するため	45.7
2位	旅先のおいしいものを味わうため	42.4
3位	ストレスからの逃避、リラックスのため	32.6
4位	旅行には行かない	28.3
5位	同行者との絆を深めるため	26.1
6位	思い出を作るため	23.9
7位	目新しい体験をするため	14.1
8位	異文化体験等を通じ自分を成長させるため	10.9
9位	旅行先の人々との交流等を求めて	10.9
10位	予定に縛られない時間を楽しむため	9.8

(単位: %)

資料: (公財) 日本交通公社「JTB旅行需要調査」

② 行ってみたい旅行タイプ

「今後1～2年の間に行ってみたい旅行のタイプ（複数回答）」について、「温泉旅行」（62.8%）、「自然観光」（55.8%）、「グルメ」（51.9%）、「歴史・文化観光」（40.8%）の順になっています。また、過去15年のトレンドと変わらない結果となっています。

性別・年代別では、「温泉旅行」、「自然観光」、「グルメ」は、どの年代においても男女に高く、「歴史・文化観光」は、20代女性、30代男性を除く層で順位が高くなっています。

表. 行ってみたい旅行タイプ（複数回答・2015年調査）

2015年			2014-2010年（2013年除く）平均			2009年-2005年 平均			2004年-2000年 平均		
順位	地域名	(%)	順位	地域名	(%)	順位	地域名	(%)	順位	地域名	(%)
1位	温泉旅行	62.8	1位	温泉旅行	44.5	1位	温泉旅行	46.8	1位	温泉旅行	54.8
2位	自然観光	55.8	2位	自然観光	37.1	2位	自然観光	41.8	2位	自然観光	44.4
3位	グルメ	51.9	3位	グルメ	30.6	3位	グルメ	38.8	3位	グルメ	42.3
4位	歴史・文化観光	40.8	4位	歴史・文化観光	27.4	4位	歴史・文化観光	35.6	4位	歴史・文化観光	39.6
5位	和風旅館	34.6	5位	海浜リゾート	25.6	5位	海浜リゾート	28.0	5位	テーマパーク	36.7
6位	海浜リゾート	33.0	6位	テーマパーク	21.3	6位	テーマパーク	25.7	6位	海浜リゾート	34.7
7位	テーマパーク	33.0	7位	世界遺産巡り	16.8	7位	動物園・水族館	18.9	7位	おしゃべり旅行	30.1
8位	高原リゾート	29.7	8位	町並み散策	16.5	8位	都市観光	18.4	8位	和風旅館	25.6
9位	町並み散策	29.0	9位	都市観光	15.7	9位	高原リゾート	17.9	9位	高原リゾート	25.2
10位	世界遺産巡り	28.1	10位	ショッピング	13.9	10位	おしゃべり旅行	17.5	10位	ショッピング	23.0
11位	リゾートホテル	27.6	11位	高原リゾート	13.5	11位	ショッピング	16.7	11位	都市観光	20.8
12位	おしゃべり旅行	26.6	12位	和風旅館	13.0	12位	町並み散策	16.3	12位	町並み散策	20.2
13位	自然現象鑑賞	26.5	13位	リゾートホテル	12.6	13位	世界遺産巡り	16.1	13位	リゾートホテル	19.0
14位	ショッピング	26.3	14位	動物園・水族館	12.0	14位	和風旅館	15.1	14位	スキー・スノーボード	16.2
15位	動物園・水族館	25.7	15位	おしゃべり旅行	12.0	15位	花の名所巡り	13.1	15位	祭・イベント	15.2
16位	都市観光	24.4	16位	自然現象鑑賞	9.9	16位	秘境ツアー	12.3	16位	動物園・水族館	15.1
17位	花の名所巡り	24.2	17位	祭・イベント	9.8	17位	自然現象鑑賞	12.0	17位	海水浴	14.8
18位	秘境ツアー	21.8	18位	花の名所巡り	9.2	18位	釣り	11.5	18位	自然現象鑑賞	14.4
19位	祭・イベント	20.2	19位	芸術鑑賞	8.3	19位	祭・イベント	11.4	19位	秘境ツアー	14.2
20位	パワースポット	19.3	20位	秘境ツアー	8.1	20位	スキー・スノーボード	11.1	20位	花の名所巡り	12.9
21位	芸術鑑賞	19.1	21位	パワースポット	7.4	21位	リゾートホテル	11.0	21位	マリンスポーツ	12.7
22位	スポーツ観戦	16.3	22位	登山・山歩き	7.3	22位	登山・山歩き	10.8	22位	登山・山歩き	12.2
23位	海水浴	14.8	23位	スキー・スノーボード	6.8	23位	海水浴	10.8	23位	芸術鑑賞	12.1
24位	マリンスポーツ	12.9	24位	スポーツ観戦	6.5	24位	オートキャンプ	10.7	24位	スポーツ観戦	11.7
25位	登山・山歩き	12.8	25位	海水浴	6.4	25位	マリンスポーツ	10.5	25位	釣り	9.1
26位	スキー・スノーボード	12.2	26位	マリンスポーツ	5.9	26位	芸術鑑賞	10.4	26位	クルーズ旅行	9.0
27位	ロングステイ	10.7	27位	ロングステイ	5.8	27位	スポーツ観戦	9.3	27位	オートキャンプ	8.5
28位	武将観光	9.0	28位	武将観光	5.1	28位	ゴルフ	8.8	28位	伝統工芸体験	6.4
29位	産業観光	8.7	29位	産業観光	4.0	29位	伝統工芸体験	7.6	29位	ゴルフ	6.1
30位	ホテルステイ	8.0	30位	ホテルステイ	3.2	30位	ロケ地巡り	7.5	30位	エコツアー	5.4

資料：（公財）日本交通公社「JTBF旅行需要調査」

表. 性別・年代別 行ってみたい旅行タイプ（複数回答・2015年調査）

		(単位：%)			
順位	20代				
	男性		女性		
1位	グルメ	52.6	グルメ	74.0	
2位	自然観光	50.0	温泉旅行	68.5	
3位	温泉旅行	40.8	テーマパーク	65.8	
4位	海浜リゾート	39.5	ショッピング	58.9	
5位	スポーツ観戦	35.5	海浜リゾート	57.5	
6位	テーマパーク	32.9	自然観光	54.8	
7位	歴史・文化観光	31.6	動物園・水族館	52.1	
8位	都市観光	28.9	リゾートホテル	50.7	
9位	ショッピング	28.9	祭・イベント	46.6	
10位	リゾートホテル	28.9	和風旅館	45.2	

		(単位：%)			
順位	30代				
	男性		女性		
1位	温泉旅行	59.8	温泉旅行	71.1	
2位	自然観光	53.6	自然観光	61.9	
3位	グルメ	53.6	グルメ	57.7	
4位	海浜リゾート	44.3	テーマパーク	56.7	
5位	テーマパーク	41.2	ショッピング	49.5	
6位	動物園・水族館	33.0	海浜リゾート	48.5	
7位	都市観光	30.9	動物園・水族館	46.4	
8位	海水浴	30.9	世界遺産巡り	44.3	
9位	ショッピング	30.9	歴史・文化観光	42.3	
10位	リゾートホテル	29.9	高原リゾート	42.3	

		(単位：%)			
順位	40代				
	男性		女性		
1位	温泉旅行	66.1	温泉旅行	74.3	
2位	自然観光	54.1	グルメ	64.8	
3位	グルメ	50.5	自然観光	53.3	
4位	テーマパーク	45.9	テーマパーク	49.5	
5位	歴史・文化観光	44.0	歴史・文化観光	42.9	
6位	海浜リゾート	39.4	おしゃべり旅行	41.9	
7位	高原リゾート	37.6	海浜リゾート	39.0	
8位	動物園・水族館	32.1	和風旅館	38.1	
9位	和風旅館	32.1	町並み散策	37.1	
10位	リゾートホテル	31.2	世界遺産巡り	35.2	

		(単位：%)			
順位	50代				
	男性		女性		
1位	温泉旅行	64.1	自然観光	71.1	
2位	自然観光	62.0	温泉旅行	65.6	
3位	グルメ	48.9	グルメ	61.1	
4位	和風旅館	42.4	歴史・文化観光	55.6	
5位	歴史・文化観光	41.3	花の名所巡り	47.8	
6位	海浜リゾート	39.1	おしゃべり旅行	44.4	
7位	高原リゾート	37.0	海浜リゾート	40.0	
8位	リゾートホテル	32.6	高原リゾート	40.0	
9位	自然現象鑑賞	30.4	ショッピング	40.0	
10位	テーマパーク	29.3	和風旅館	37.8	

		(単位：%)			
順位	60代				
	男性		女性		
1位	温泉旅行	70.8	温泉旅行	69.4	
2位	自然観光	61.3	自然観光	55.9	
3位	歴史・文化観光	53.8	グルメ	51.4	
4位	グルメ	47.2	歴史・文化観光	46.8	
5位	町並み散策	36.8	おしゃべり旅行	41.4	
6位	和風旅館	35.8	花の名所巡り	36.0	
7位	世界遺産巡り	27.4	町並み散策	36.0	
8位	自然現象鑑賞	26.4	和風旅館	34.2	
9位	高原リゾート	25.5	高原リゾート	26.1	
10位	花の名所巡り	25.5	自然現象鑑賞	26.1	

		(単位：%)			
順位	70代				
	男性		女性		
1位	自然観光	60.0	温泉旅行	55.4	
2位	温泉旅行	55.0	自然観光	43.5	
3位	歴史・文化観光	40.0	和風旅館	38.0	
4位	グルメ	27.5	グルメ	37.0	
5位	花の名所巡り	26.3	花の名所巡り	35.9	
6位	自然現象鑑賞	26.3	町並み散策	30.4	
7位	和風旅館	22.5	歴史・文化観光	28.3	
8位	町並み散策	18.8	おしゃべり旅行	27.2	
9位	秘境ツアー	17.5	高原リゾート	19.6	
10位	世界遺産巡り	17.5	芸術鑑賞	18.5	

資料：(公財) 日本交通公社「JTBF旅行需要調査」

2-2 森町の観光の概況

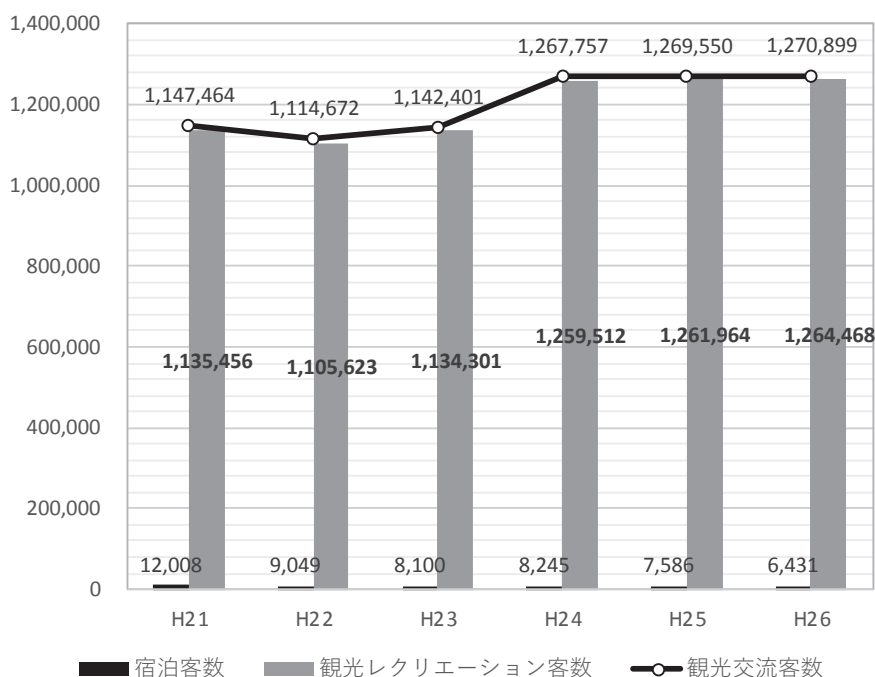
(1) 観光交流客数の推移 (年度別)

静岡県観光交流の動向によると、平成 24 年以降観光交流客数は増加傾向となっています。平成 24 年には 4 月に新東名高速道路森掛川 IC の開設があり、その影響と考えられます。

一方で、宿泊客数は、平成 21 年以降減少傾向が続いています。

図表. 観光交流客数の推移 (資料：静岡県観光交流の動向) (人)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
宿泊客数	12,008	9,049	8,100	8,245	7,586	6,431
観光レクリエーション客数	1,135,456	1,105,623	1,134,301	1,259,512	1,261,964	1,264,468
合計：観光交流客数	1,147,464	1,114,672	1,142,401	1,267,757	1,269,550	1,270,899



また、観光レクリエーション客数について、対象としている施設及びイベントは次頁のとおりです。なお、その他はゴルフ場となっています。

多くの観光交流客を集める施設は、小國神社であり年間約 85 万人となっています。次いでアクティ森の約 9~10 万人、大洞院の約 2.6~2.7 万人となっています。イベントでは、納涼花火大会、もりもり 2 万人まつり、森のまつりが、約 2.5 万人となっています。

表. 観光交流客数の推移（内訳）（資料：産業課資料）

（人）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
極楽寺	21,800	20,000	20,000	16,720	15,070	14,920	15,700
小國神社	745,000	710,000	757,000	835,000	849,000	849,000	850,000
大洞院	30,600	37,750	29,200	21,600	23,400	26,000	27,500
蓮華寺	17,260	14,796	9,988	24,030	19,360	16,716	16,350
アクティ森	35,713	74,251	69,845	86,508	80,610	87,434	96,511
香勝寺	14,300	10,818	13,465	17,030	18,360	14,080	16,080
歴史民俗資料館	3,309	3,131	2,889	3,729	2,916	2,621	2,064
施設：計	867,982	870,746	902,387	1,004,617	1,008,716	1,010,771	1,024,205
森のまつり	21,000	21,000	21,000	24,000	24,000	24,000	24,000
納涼花火大会 （太田川親水公園）	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
もりもり2万人まつり	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
向天方桜まつり	5,000	5,000	—	15,000	15,000	15,000	15,000
森町商店街夏まつり	1,500	1,500	1,500	—	—	—	—
山名神社天王祭	3,200	3,200	3,200	3,500	3,500	3,500	3,500
イベント：計	80,700	80,700	75,700	92,500	92,500	92,500	92,500
小計	948,682	951,446	978,087	1,097,117	1,101,216	1,103,271	1,116,705
その他	186,774	154,177	156,214	162,395	160,748	161,197	—
宿泊客数	12,008	9,049	8,100	8,245	7,586	6,431	6,576
合計：観光交流客数	1,147,464	1,114,672	1,142,401	1,267,757	1,269,550	1,270,899	未公表

(2) 観光交流客数の推移 (月別)

年間(H26)の月別観光交流客数の推移をみると、観光レクリエーション客数は、1月が最も多く約40万人であり、年間127万人の3分の1程度を占め、小國神社への初詣客と推測されます。次いで11月が多く、森のまつりの開催のほか、

表. 観光交流客数(H26)の対象施設・イベント等

対象施設	対象イベント等	開催時期
極楽寺	森のまつり	11月開催
小國神社	納涼花火大会 (太田川親水公園)	8月15日開催
大洞院	もりもり2万人まつり	11月開催
蓮華寺	向天方桜まつり	4月開催
アクティ森	山名神社天王祭	7月開催
香勝寺		
歴史民俗資料館		

七五三や紅葉シーズンと重複します。さらに、6月が続いており、極楽寺のあじさい、小國神社の花しょうぶ、香勝寺のききょうの開花時期と重なっています。

宿泊客数は、8月が最も多く1,408人となっており、夏休みと重なることから、キャンプ客等と推測されます。次いで11月、さらに3月・5月が同数で続いています。

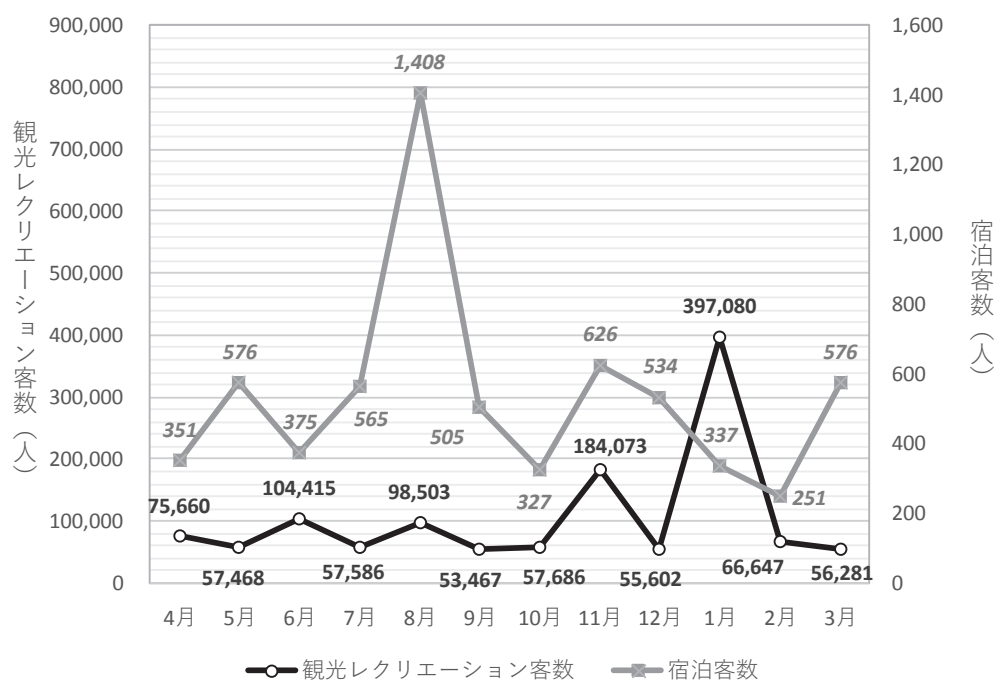


図. 月別観光交流客数の推移 (H26) (資料: 産業課資料)

(3) 森町内の新東名高速道路 IC の利用状況（年度別）

森町内の新東名高速道路の IC は、平成 24 年 4 月に開設された森掛川 IC と平成 26 年 3 月に遠州森町 PA に開設された遠州森町スマート IC（上下線ともに）の 2 つの IC があります。

IC 開設初年度の平成 24 年度の利用は、約 134 万台となっており、平成 25 年度・平成 26 年度と総数は減少しました。平成 27 年度は再び増加し、初年度を超える約 141 万台となっています。

遠州森町スマート IC は平成 26 年 3 月末の開設以降、年々増加しており、平成 27 年度は、前年比約 128%となっています。

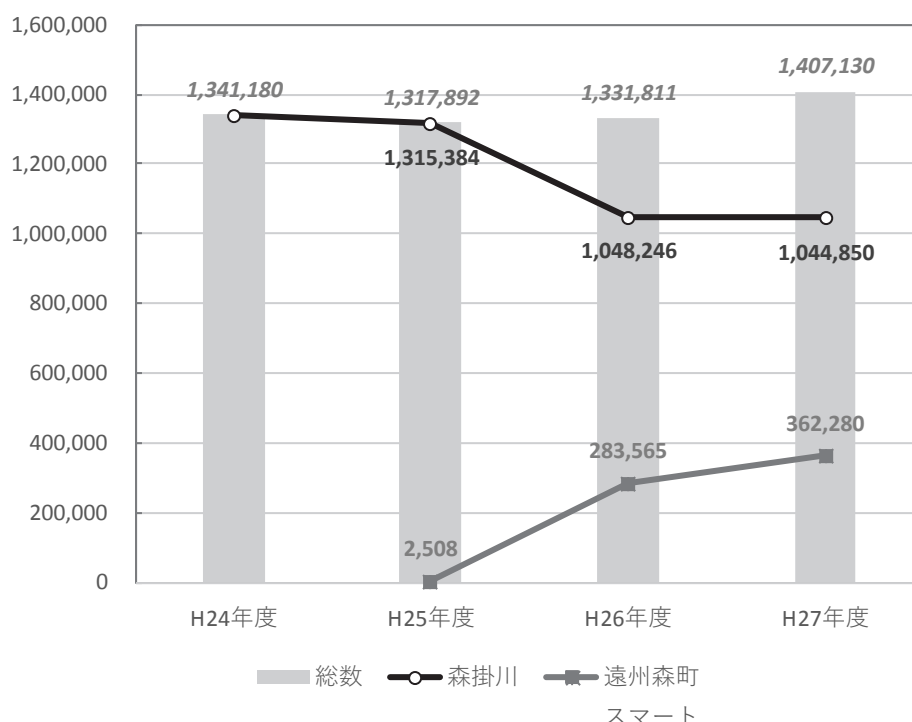


図. 森町内の新東名高速道路 IC の利用状況の推移（資料：建設課資料）

(4) 森町内の新東名高速道路 IC の利用状況（月別）

年間（H27）の森町内の新東名高速道路 IC の利用状況の推移をみると、総数では 3 月の利用が最も多く、次いで 8 月、5 月、6 月、11 月の順に多くなっています。

森掛川 IC で最も多いのは 8 月、次いで 3 月、5 月、6 月、11 月となっています。

遠州森町スマート IC では、最も多いのは 3 月、次いで 1 月、11 月、8 月、5 月となっています。

観光交流客数（H26）と比較すると、観光客数が最も多い 1 月については、森町内の新東名高速道路 IC の利用状況では 6 番目となっており、ピークは重なっていません。一方、遠州森町スマート IC では 2 番目に多くなっており、次いで観光交流客数が多い 11 月が 3 番目に多くなっていることから、小國神社参拝客の遠州森町スマート IC 利用が推測されます。

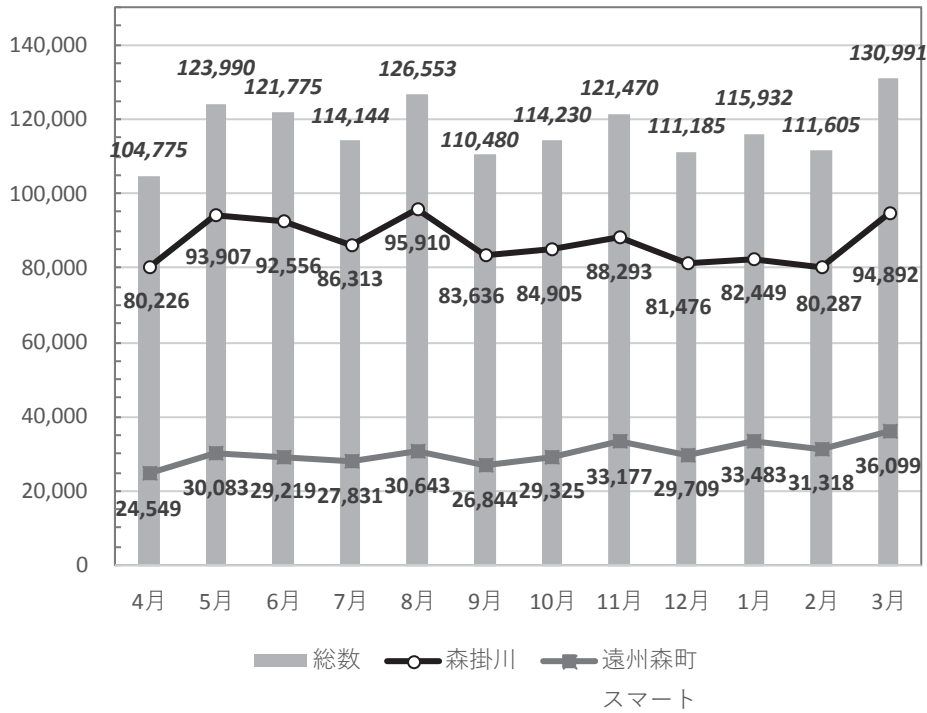


図. 森町内の新東名高速道路 IC の利用状況の推移 (H27 年度・月別)
(資料：建設課資料)

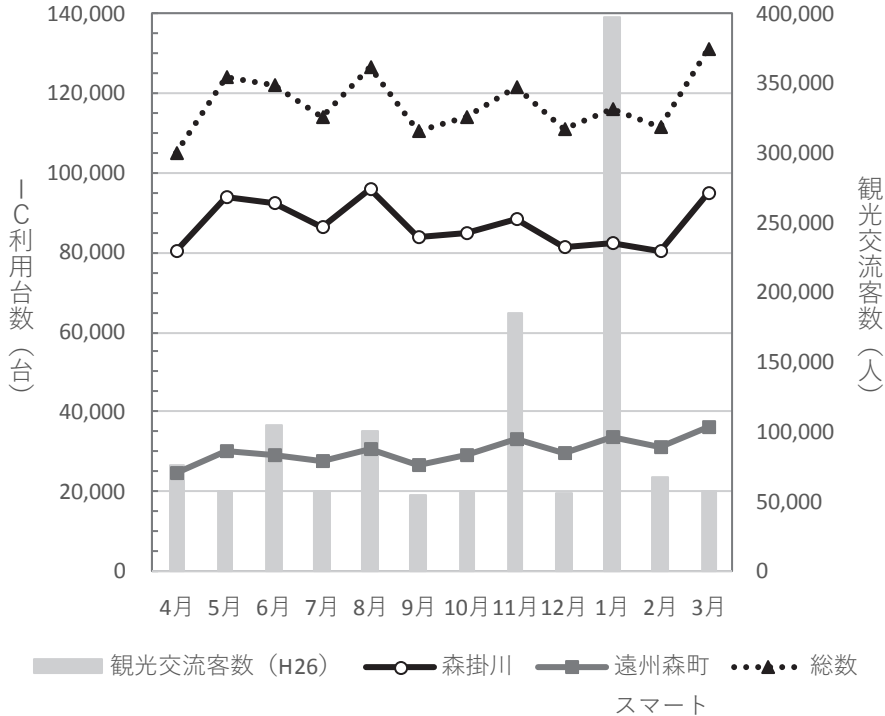


図. 森町内の新東名高速道路 IC の利用状況の推移 (H27 年度・月別) と観光交流客数
(資料：建設課資料)

(5) 森町内の天竜浜名湖鉄道の利用状況

森町内の天竜浜名湖鉄道の駅は、戸綿駅、遠州森駅、円田駅、遠江一宮駅の4駅であったが、平成26年度末に、森町病院前駅が開設され5駅となっています。

平成23年度～平成27年度では、森町内5駅の総数は平成24年度の増加率が大きく平成25年度で減少しましたが、増加傾向が続いており、平成27年度は約45万人の利用者となっています。対平成23年度比で約119%となっています。

遠州森駅の利用者が最も多く、約25.5万人（H27年度）となっており、総数と同様の推移となっています。次いで戸綿駅が約9.5万人（H27年度）となっており、平成24年度と一旦減少しましたが、その後は増加傾向となっています。

遠江一宮駅は、平成25、26年度に減少したものの平成27年度には増加し、約5.3万人となっています。また、円田駅は増加傾向が続いたものの、平成27年度は減少しており、一方で、平成26年度末に森町病院前駅が開設され、約2.1万人（H27年度）の利用者を集め、円田駅の約2.4万人（H27年度）に迫っています。

なお、遠江一宮駅には、小國神社への送迎マイクロバスが運行（日曜日・祝祭日等）されています。

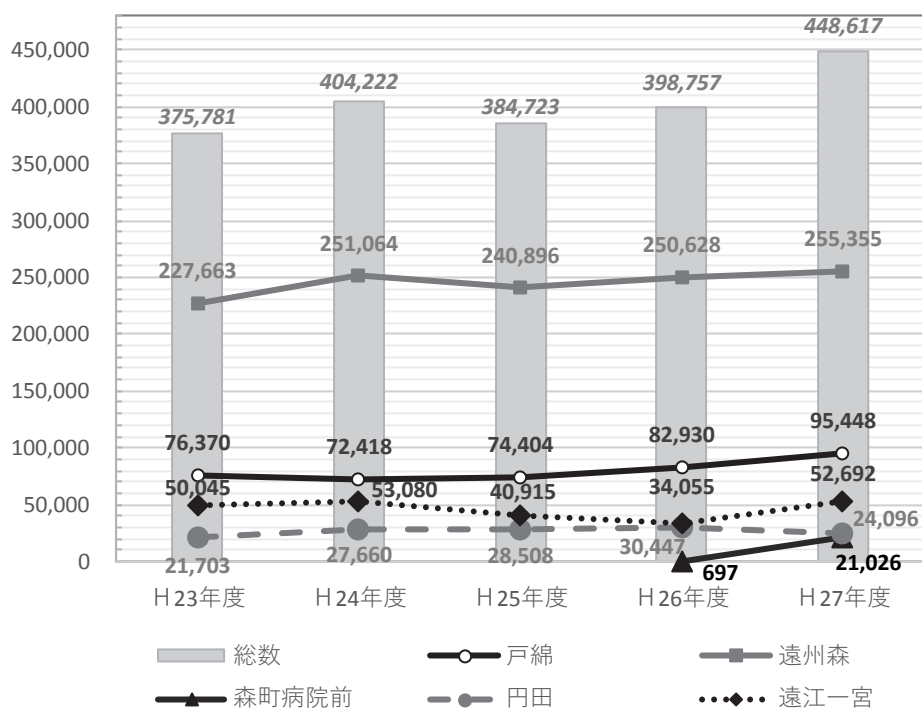


図. 森町内の天竜浜名湖鉄道の利用状況 (資料：庁内資料)

(6) レンタサイクルの利用状況の推移

森町で利用者が最も多い遠州森駅には、レンタサイクルが設置されています。台数は28台で、利用時間は午前9時30分～午後3時30分、利用料金は300円となっています。

直近10年間の推移は、平成21年度をピークに、減少傾向が続いており、平成27年度では246台にとどまり、ピーク時の約33%にとどまっています。

平成27年度の月別の利用状況をみると、10月が最も多く44台、次いで5月の38台、9月の33台と続いています。

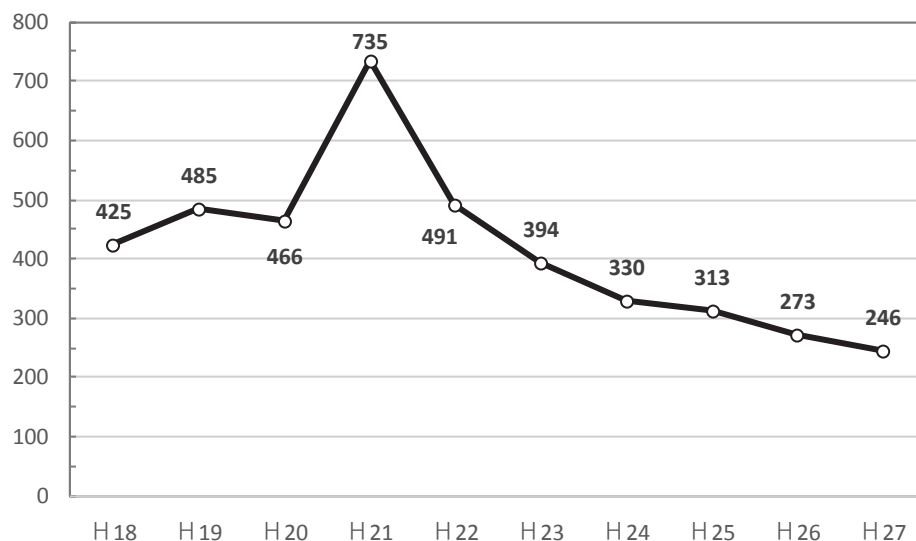


図. レンタサイクルの利用状況（年別）（資料：産業課資料）

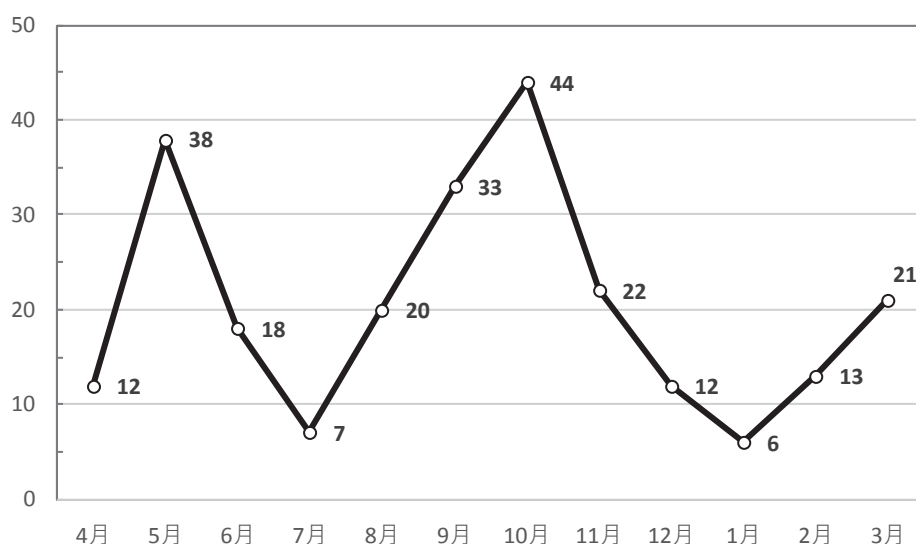


図. レンタサイクルの利用状況（H27年度・月別）（資料：産業課資料）

(7) 森町の観光資源の特性把握

森町の観光資源の特性を把握するため、「施設等」と「イベント」に分類し分析を行いました。

施設については、三倉・天方・森・一宮・園田・飯田の6地区に分類するとともに、神社・寺院、歴史的資源（文化財等）、文化的資源・施設等、自然資源、その他の5種類に分類、整理しました。

また、イベントについては、上記6地区において、季節ごとの「イベント」（まつり等）を整理しました。

① 森町の観光資源（施設等）の状況

森町の特徴としては、神社・寺院、歴史的資源（文化財）が多くなっています。地形的に平地部と山間地に分かれることから、施設等の内容についても、平地部の市街地である森地区と農業地域の一宮地区、園田地区、飯田地区、山間地の三倉地区、天方地区とに施設の傾向が分かれています。

各地区の特徴としては、平地部である中心部の森地区には多くの観光資源があります。その他を除き全ての種類において資源があり、遠州の小京都を感じられる資源（森町之賦、森・城下の町並み、天宮神社など）があります。一宮地区は、森町で最も多くの観光客を集める小國神社があるほか、あじさいで知られる極楽寺があり、「ふじのくに美しく品格のある邑」に登録され、豊かな田園風景が広がっています。園田地区は、観光資源は最も乏しい地区となっているものの、新東名高速道路遠州森町 PA があります。飯田地区は、山名神社、崇信寺などのほか、2002年サッカーワールドカップ日本代表の宿泊地となり、女子プロゴルフツアーが開催されるゴルフ場があります。また、園田地区、飯田地区は、一宮地区と同じく、「ふじのくに美しく品格のある邑」に登録され、豊かな田園風景が広がっており、森町の特産のレタスやとうもろこし、米、治郎柿等が栽培されています。特に初夏（6月頃）には、とうもろこし（甘々娘）を求め多くの人が訪れています。

山間部では、三倉地区には神社・寺院が多く、三倉川をはじめ自然にふれあえる場があります。天方地区には、森町で2番目に多くの観光客を集める観光施設のアクティ森があるほか、三倉地区同様に、吉川（太田川）をはじめ、太田川ダム湖のかわせみ湖、葛布の滝やキャンプ場など、自然にふれあえる場があります。また、「ふじのくに美しく品格のある邑」にも登録されています。

表. 森町の観光資源（施設等）

	三倉	天方	森	一宮	園田	飯田
神社・寺院	<ul style="list-style-type: none"> ・金剛院 ・許禰神社 ・蔵泉寺 ・栄泉寺 	<ul style="list-style-type: none"> ・大日堂（大まる様） ・蔵雲院 ・自得院 ・日月神社 	<ul style="list-style-type: none"> ・天宮神社 ・三島神社 ・金守神社 ・大洞院 ・梅林院 	<ul style="list-style-type: none"> ・小國神社 ・極楽寺 	<ul style="list-style-type: none"> ・香勝寺 	<ul style="list-style-type: none"> ・山名神社 ・賀茂神社 ・遍照寺 ・本立寺 ・崇信寺
歴史的資源 (文化財等)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋葉山常夜灯 ・戦国夢街道 	<ul style="list-style-type: none"> ・友田家住宅 ・秋葉山常夜灯 	<ul style="list-style-type: none"> ・江間家土蔵 ・天方城跡（城ヶ平公園） ・遠州森駅本屋及び上りプラットフォーム（天竜浜名湖鉄道） ・太田川橋梁（天竜浜名湖鉄道） ・延城橋 ・本町の町並み ・城下の町並み ・旧城下学校 ・鈴木藤三郎記念館 ・歴史民俗資料館 ・秋葉山常夜灯 ・治郎柿（次郎柿）原木 ・桜御前の碑 ・森町之賦 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠江一宮駅本屋（天竜浜名湖鉄道） ・一宮川橋梁（天竜浜名湖鉄道） ・秋葉山常夜灯 		<ul style="list-style-type: none"> ・飯田城跡 ・秋葉山常夜灯
文化的資源 ・施設等		<ul style="list-style-type: none"> ・アクティ森 	<ul style="list-style-type: none"> ・森山焼陶房（静郵陶房、中村陶房、晴山陶房） ・森アリーナ ・ミキホール ・保健福祉センター（望月プラザ/もりの湯） ・森の市 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮の市 ・新東名高速道路 遠州森町PA ・森山焼陶房（田米陶房） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新東名高速道路 遠州森町PA 	
自然的資源	<ul style="list-style-type: none"> ・三倉川 ・東海自然歩道 ・大河内清流やまめの里 	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川（太田川） ・かわせみ湖（太田川ダム） ・葛布の滝 ・タイラ沢の滝 ・吉川キャンプ場 カワセミの里 ・半夏生の里 	<ul style="list-style-type: none"> ・太田川 ・町民の森 ・太田川親水公園 ・ザ・フォレスト CC 	<ul style="list-style-type: none"> ・一宮川 ・ザ・フォレスト CC ・三木の里CC 	<ul style="list-style-type: none"> ・太田川 	<ul style="list-style-type: none"> ・太田川 ・葛城CC
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに美しく 品格のある邑（天方） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに美しく 品格のある邑（一の宮の里） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに美しく 品格のある邑（森町南部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに美しく 品格のある邑（森町南部）

② 森町の観光資源（イベント等）の状況

森町の特徴としては、四季を通じてお祭りをはじめとする各種のイベントがあります。特に花（紅葉）を楽しめるイベントがあり、京都と通ずる点の1つとなっています。また、京都を起源とする国指定重要無形文化財の舞楽（十二段舞楽、天王祭舞楽）は春と夏に行われており、冬に行われる小國神社田遊びの舞楽は、県無形文化財となっています。また、近年、豊かな農産物等を活かし、市（いち）等が定期的に行われています。

季節的には、冬のイベントが少なくなっており、森地区・一宮地区に限定されています。

地域的には、園田地区が最も少なく夏のみとなっており、飯田地区は春と冬にイベント等がない状況です。また、三倉地区、天方地区もイベント等の総数は少なくなっています。

その他の特徴としては、中心部の森地区では、イベントの中で集客が最も多い納涼花火大会、もりもり2万人まつりをはじめ、森のまつり、向天方桜まつりなど、四季を通じて内容も多岐にわたり、多くのイベント等が実施されています。定期的なイベントが複数あることも特徴です。また、一宮地区では、小國神社のイベントが中心となりますが、花めぐりや伝統的舞楽などがあるほか、朝市が定期開催されています。

しかしながら、小京都をテーマとしたイベントはなく、今後、検討が必要なイベントです。

表. 森町の観光資源（イベント等）

	春（3月～5月）			夏（6月～8月）			秋（9月～11月）			冬（12月～2月）			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
三倉	・ぶぶぶの日			・三倉川鮎釣り解禁 ・大般若経（蔵泉寺） ・きゅうり祈祷（金剛院）			・星まつり（金剛院） ・柴灯護摩祈祷（金剛院） ・ぶぶぶの日			・大般若経（蔵泉寺）			
天方	・ぶぶぶの日			・吉川鮎釣り解禁			・森町クラフトフェア（アクティ森） ・ぶぶぶの日						
森	・石松まつり（町内～大洞院） ・石松供養祭 ・天宮神社例大祭 ・十二段舞楽（天宮神社） ・向天方桜まつり（太田川桜堤） ・町並みと蔵展（まちなか） ・ぶか風揚げ（太田川河川敷） ・森町健康Kトラ市（保健福祉センター） ・遠州森駅発 Neo森の古着市			・太田川鮎釣り解禁 ・納涼花火大会 ・森ほたる ・森町健康Kトラ市（保健福祉センター） ・遠州森駅発 Neo森の古着市			・蓮華寺秋祭り ・森のまつり（三島神社・まちなか） ・もりもり2万人まつり&農協祭（文化会館） ・大洞院紅葉祭 ・町並みと蔵展（まちなか） ・森町健康Kトラ市（保健福祉センター） ・遠州森駅発 Neo森の古着市			・星まつり（蓮華寺） ・餅焼き（大洞院） ・森町健康Kトラ市（保健福祉センター） ・遠州森駅発 Neo森の古着市			
一宮	・小國神社桜まつり ・小國神社例大祭 ・十二段舞楽（小國神社） ・まちあい朝市（遠江一宮駅）			・小國神社花菖蒲まつり ・極楽寺あじさいまつり ・とうもろこし販売（甘々娘） ・まちあい朝市（遠江一宮駅）			・小國神社紅葉祭 ・まちあい朝市（遠江一宮駅）			・小國神社田遊び ・節分祭（小國神社） ・まちあい朝市（遠江一宮駅）			
園田				・香勝寺さきょうまつり ・とうもろこし販売（甘々娘）									
飯田				・太田川鮎釣り解禁 ・山名神社天王祭 ・山名神社天王祭舞楽 ・とうもろこし販売（甘々娘）			・鬼子母神祭（本立寺）						
花めぐり	サザンカ												
	ツバキ												
	ウメ												
	サクラ												
	シャガ												
	シャクナゲ												
	ハナショウブ												
	ハギ												
	アジサイ												
	キキョウ												
	ユリ												
モミジ													
ロウバイ													
農の恵み	お茶												
	治郎柿												
	とうもろこし												
	レタス												
	お米												
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
	春（3月～5月）			夏（6月～8月）			秋（9月～11月）			冬（12月～2月）			

花・紅葉関連
 無形文化財（国又は県）
 定期開催（月1回程度）
 定期開催

③ 森町の観光コース（ウォーキング・サイクリング）の状況

森町の観光コースは、3つのマップが発行されており、ウォーキングコースが2種類、サイクリングコースが1種類となっています。

ウォーキングコースについては、「遠州の小京都」を打ち出したものが「四季の小京都見て歩き」であり、遠州森駅をスタート・ゴールとし「花と緑を愛でる道コース」、「秋葉街道祈りの道コース」、「ふる里味わいの道コース」の3つの趣向を凝らしたコース設定となっています。また、マップには、「京都ゆかりのお話」が紹介されています。

健康増進を目的として、四季の森町を楽しみながらウォーキングが楽しめるコースとして、「歩く森町。」というウォーキングコース12選+αがあり、市街地・里山・低山の3つの地域や地形で分類された12のコースが設定されています。

上記、2種類のウォーキングマップに加えて、サイクリングコースが設定された「森町サイクルツーリングマップ」があり、アクティ森をスタート・ゴールとし、のどかな里道を巡るお散歩向きコースから、林道を含む本格的なマウンテンバイク向けのコースまで、5つのコースが設定されています。

表. 森町の観光コース（ウォーキング・サイクリング）

種別	マップ名	設定されているコース	特徴（概要）	距離	
ウォーキング	四季の小京都 見て歩き 唯一、遠州の小京都を打ち出したものであり、遠州森駅をスタート・ゴールとした趣向を凝らしたテーマ別のウォーキングコース。「京都ゆかりのお話」も紹介。 	花と緑を愛でる道コース	太田川桜堤など太田川の川辺を散策し、花や緑、歴史に触れるコース	約15km	
		秋葉街道祈りの道コース	秋葉街道を感じる町並みや土蔵、歴史ある寺社を巡り、森町の偉人の足跡や伝説をたどるコース	約10km	
		ふる里味わいの道コース	森の茶や和菓子など、森町ならではの味わいを楽しむコース	約7km	
	歩く森町。 自然と歴史との豊かな出会い 森町ウォーキングコース12選+α 森町歩こう会がコース設定に協力し、四季の森町を楽しむことができる、健康ウォーキングのためのコース。 	市街地コース	太田川と町並み探索コース	桜のトンネルをくぐり、宿場町の趣にひたるコース	約11.4km
			歴史の散歩道コース	信仰・交易の馬道で、歴史と自然にふれるコース	約7.3km
			森山焼窯元散策コース	歴史と文化のもてなしに、遠州の小京都を実感するコース	約5.6km
		里山コース	森町五社寺めぐりコース	歴史ある5つの社寺と季節の花めぐりコース	約15km
			飯田の里山コース	東海一の大仏に会える古城址の里めぐりコース	約12km
			小国神社と本宮山コース	静寂の森と懐かしい山里に、時を忘れるコース	約13.8km
		低山コース	城ヶ平（天方城跡）コース	森町の全景と遠州灘を城址から展望するコース	約12.5km
			葛布（かっぶ）の滝コース	清涼感あふれる伝説の滝と里山を探索する	約7km
			春埜山と大日山コース	森町最高地点で、歴史と自然と眺望を堪能するコース	約17km
孤張山林道コース	標高614mの孤張山を尾根道を伝って踏破するコース		約20.5km		
吉川沿い里山・里川めぐりコース	吉川の清流沿いを辿り、ゆかしい山里の風情を味わうコース		約17km		
	(+α) 半蔵山ハイキングコース	アクティ森周辺の自然豊かな山道を巡るハイキングコース	約3.2km		
	戦国夢街道ハイキングコース	信仰・交易・戦いの足跡が残る、里山の古道を歩くコース	塩の道：約8.5km 三丸：約5.5km 半命：約4.1km		
サイクリング	森町サイクルツーリングマップ アクティ森をスタート・ゴールとし、のどかな里道を巡るお散歩向きコースから、林道を含む本格的なマウンテンバイク向けのコースまで楽しめるサイクリスト向けのサイクリングコース。 	里山MTB体験コース	懐かしい里山の風景とともに、MTBの面白さを体験できる山道を含むコース	約17km	
		孤張山MTB上級コース	標高614mの孤張山山頂直下まで、未舗装林道を登る上級者向けコース	約20.5km	
		大河内MTBロングコース	ほとんどが未舗装の林道で、標高約450mまでヒルクライムし、大河内の集落を抜けるコース	約28km	
		城ヶ平ヒルクライムコース	街地一望の展望台がある天方新城後跡まで、標高270mを一気にヒルクライムするコース	約10.5km	
		田園ボタリングコース	旧秋葉街道の風情を残す町並みや天浜線のひなびた駅、小国神社、大洞院など、見どころが充実した森町の田園風景を満喫できるコース	約24km	

(8) 森町の観光客の受入体制等の状況

森町の観光客の受入体制として、宿泊施設、飲食施設の状況を整理しました。

また、「遠州の小京都まちづくり基本構想」において、おいしい和菓子と森の茶、森山焼、農の恵みが挙がっており、これらの状況についても整理しました。

① 森町の宿泊施設の状況

森町内の宿泊施設は、3件のみであり、収容人数は総数で105人とどまっています。

表. 森町の宿泊施設 (資料：遠州森町観光マップ)

No.	店名	収容人数	地区
1	コテージ・アクティ	40人	天方
2	三鞍の山荘	40人	三倉
3	新屋旅館	25人	森

これらのほかには、天方地区に吉川キャンプ場カワセミの里があるほか、三倉地区に農家民宿「創藝舎」(収容人数：6名)があります。

② 森町の飲食施設の状況

森町内の飲食施設は28件あり、内訳は和食：13件、うどん・そば：4件、中華・ラーメン：3件、洋食：3件、寿司：2件、うなぎ：1件、お好み焼き：1件、喫茶店：1件となっています。

また、地区別にみると、森地区：12件、一宮地区：6件、飯田地区：6件、天方地区：2件、三倉地区：1件、園田地区：1件となっています。

表. 森町の飲食施設 (資料：遠州森町観光マップ)

No.	種別	店名	地区	No.	種別	店名	地区
1	和食	神楽坂峠の茶屋	三倉	16	喫茶店	やさい畑	森
2	洋食	レストランかわせみ	天方	17	和食	久松	園田
3	そば	ほっとり	天方	18	和食	保食や	一宮
4	うなぎ	翠清	森	19	そば	宮前蕎麦かんなび	一宮
5	和食	柏屋	森	20	洋食	森のカフェひだまり	一宮
6	和食	ささ川	森	21	和食	久米吉「宮前田楽」	一宮
7	和食	シンカド食堂	森	22	和食	久米吉「宮川棧敷」	一宮
8	和食	長坂	森	23	そば	百々や	一宮
9	和食	古澤屋	森	24	和食	魚伊	飯田
10	中華	金与食堂	森	25	和食	秋葉路	飯田
11	中華	美濃口園	森	26	洋食	桃樹	飯田
12	寿司	ふじずし	森	27	和食	海鮮亭いっき	飯田
13	寿司	やまだ寿し	森	28	うどん・そば	利休庵	飯田
14	ラーメン	大場食堂	森	29	ラーメン	7福神	飯田
15	お好み焼き	お好み焼き1・2・3	森				

※No.14 大場食堂はH28年末に閉店。

遠州森町観光マップ

食事処	店名	住所・電話番号	営業時間	定食口	定人数
1	和食 神楽畑の茶屋	森町三番 1853 ☎.0538-85-0035	11:30~ 夜営業	大皿皿	50名
2	洋食 レストランがむかみ	森町三番 1115-1 ☎.0538-85-1188	11:30~18:00	大皿皿	250名
3	そば ぼっとり	森町三番 879-5 ☎.0538-85-9800	10:00~16:00	大皿皿	40名
4	和食 翠港	森町三番 731 ☎.0538-85-2710	11:30~14:00 17:00~21:00	大皿皿	3名
5	和食 柏屋	森町三番 135 ☎.0538-85-5418	17:00~22:00	大皿皿	15名
6	和食 ざき川	森町三番 177 ☎.0538-85-3636	17:00~22:00	大皿皿	4名
7	和食 シンカド食堂	森町三番 2117-7 ☎.0538-85-2312	11:30~14:00 17:00~21:00	大皿皿	6名
8	和食 辰兵衛	森町三番 235 ☎.0538-85-2276	11:00~19:00	大皿皿	3名
9	和食 吉澤屋	森町三番 401 ☎.0538-85-4236	11:30~ 夜営業	大皿皿	5名
10	中華 金守食堂	森町三番 1705-4 ☎.0538-85-2325	11:30~14:00 17:30~23:00	大皿皿	20名
11	中華 美濃口園	森町三番 1003-5 ☎.0538-85-4704	11:00~20:00	大皿皿	15名
12	和食 ふじざし	森町三番 705 ☎.0538-85-4378	11:00~22:00	大皿皿	5名
13	和食 やまだ煮し	森町三番 736-3 ☎.0538-85-3700	11:00~20:00	大皿皿	3名
14	和食 大徳食堂	森町三番 725 ☎.0538-85-2265	11:00~18:00	大皿皿	3名
15	和食 お好み焼き 1・2・3	森町三番 1682-5 ☎.0538-85-3784	11:00~19:30	大皿皿	6名
16	和食 やさい屋	森町三番 1405 ☎.0538-85-1111	9:00~16:30	大皿皿	2名
17	和食 久松	森町三番 113-4 ☎.0538-85-8271	18:00~ (夜営業)	大皿皿	2名
18	和食 辰屋 (MAY'S)	森町三番 3910-3 ☎.0538-85-7293	11:00~	大皿皿	10名
19	そば 高野庵かんぱ	森町三番 968-1 ☎.0538-85-6933	11:00~16:00	大皿皿	2名
20	洋食 森のカフェ ひだまり	森町三番 3387-1 ☎.0538-89-7385	11:30~17:30	大皿皿	15名
21	和食 久米吉「森田屋」	森町三番 3843-7 ☎.0538-89-0015	11:00~19:00	大皿皿	40名
22	和食 久米吉「森川」	森町三番 3843-7 ☎.0538-89-0015	11:00~19:00	大皿皿	40名
23	そば 百々々	森町三番 2431-2 ☎.0538-89-7077	11:00~16:00	大皿皿	5名
24	和食 魚伊	森町三番 1670-1-1 ☎.0538-85-2012	17:00~23:00 (夜営業)	大皿皿	4名
25	和食 秋葉屋	森町三番 2705-1 ☎.0538-85-0001	11:00~21:00	大皿皿	40名
26	洋食 純屋	森町三番 2593-1 ☎.0538-85-2120	9:00~20:00	大皿皿	15名
27	和食 海鮮亭いっさ	森町三番 3105-6 ☎.0538-85-3696	11:00~14:00 17:00~21:00	大皿皿	40名
28	和食 柳伏庵	森町三番 2618-1 ☎.0538-89-0189	11:00~14:30 18:00~19:00	大皿皿	7名
29	和食 7福神	森町三番 1887-1 ☎.0538-49-3827	11:30~14:00 18:00~21:00	大皿皿	9名



※No.14 大場食堂は H28 年末に閉店。

図. 森町の飲食施設位置図 (資料: 遠州森町観光マップ)

③ 森町の茶商の状況

森町内の茶商組合の会員は、18社（店）となっています。森地区が12社（店）と最も多く、その他の地区が1件ずつとなっています。また、隣接の袋井市に1件となっています。

森の茶は、古くから「遠州森町よい茶の出処、娘やりたやお茶摘みに…」と浪曲に謡われており、全国的にその名を知らしめています。

表. 森町の茶商（組合員） （資料：森町茶商組合）

No.	社名・店名	地区	No.	社名・店名	地区
1	(株)島商店	森	10	(株)鈴木長十商店	森
2	松浦製茶(株)	森	11	野口製茶所	森
3	(株)おさだ製茶	森	12	(有)入手製茶	森
4	大石商店	飯田	13	(有)太田茶店	一宮
5	内藤光雄商店	森	14	(有)山本商店	飯田
6	栗田商店	天方	15	カネマン西尾商店	袋井市宇刈
7	(株)八幡屋茶舗	森	16	長谷川健一商店	森
8	(有)鈴木次郎商店	森	17	お茶の伊藤屋(有)	三倉
9	(有)石田茶店	森	18	森乃茶園船木茶店	森

④ 森町の菓子業の状況

森町内の菓子組合の会員は、7店となっています。そのうち5店が森地区にあります。園田地区・天方地区に1店となっています。

森町発の銘菓「梅衣」のほか、「治郎柿ようかん」、「栗蒸しようかん」、「みそまんじゅう」など、和菓子の老舗が多くなっています。

表. 森町の菓子業（組合員） （資料：森町菓子組合）

No.	店名	地区
1	大鳥居 月花園	天方
2	村登屋	森
3	新町 月花園	森
4	福むら菓子店	森
5	栄正堂	森
6	菓子司 中島屋	森
7	(株)菓匠あさおか	園田

⑤ 森山焼の状況

森山焼は、明治44年中村秀吉氏によって創始された静岡県内で最も大きな窯場です。

遠州流茶道の開祖、小堀遠州ゆかりの遠州七窯の一つ、志戸呂焼の流れをくみ、名前は森町森山の地名から命名され、現在は4つの窯元があります。

創始者中村秀吉氏は、瀬戸の陶工藤四郎の物語に感化され、森山の土が陶工に向くことを知り、志戸呂より初代鈴木静邨氏を招き、陶業を始めました。森山焼の名を不動のものにしたのは、大正4年の天皇即位を祝い、花瓶と置物を献上したことをきっかけに、製品づくりに取り組み、今日の地位を得ています。

静岡県知事指定（昭和55年1月）の伝統工芸品であり、静岡こだわりの逸品ガイドの工芸品として、登録されています。

表. 森山焼の陶房

窯元	特徴
中村陶房	素朴な味わいと豊かな芸術性を備えた焼き物を作り出す。
静邨陶房	先代が生み出した至難の業と言われる赤の表現にこだわり、赤焼を得意とする。
晴山陶房	日本的な素朴さ、ぬくもりを民芸的に表現する。
田米陶房	新進気鋭、芸術性に富んだ作品で、手作りのぬくもりを表す。現在は、小國神社の境内に別所窯みもろ焼として、陶房を構えている。



図. 森町の茶業組合員・菓子組合員・森山焼陶房の位置図

⑥ 森町の農の恵みの状況

森町内の名産品は、森の茶、治郎柿、レタス、とうもろこし、メロン、椎茸等の農産物があります。治郎柿は、原産地であり、皇室献上しています。近年は、とうもろこしの人気が高く、人気品種である「甘々娘（かんかんむすめ）」の収穫時期の6月頃には「遠州森町とうもろこしマップ」が、森町のウェブサイトで紹介されており、多くの人々が朝早くから直売所を訪れています。

また、地元産の食材をもとに、甘酒、手づくりハム、ワインなどの多くの加工食品もあります。これらの農産物、加工食品など、森町の特産品を町内の直売所等で購入ができます。

表. 森町の農産物等直売所

No.	店名	主な取扱い	地区
1	森の市	農産物、特産品等	森
2	宮の市	農産物等	一宮
3	森のよんな市	特産品等	天方
4	アマガタ山里の市	農産物等	天方

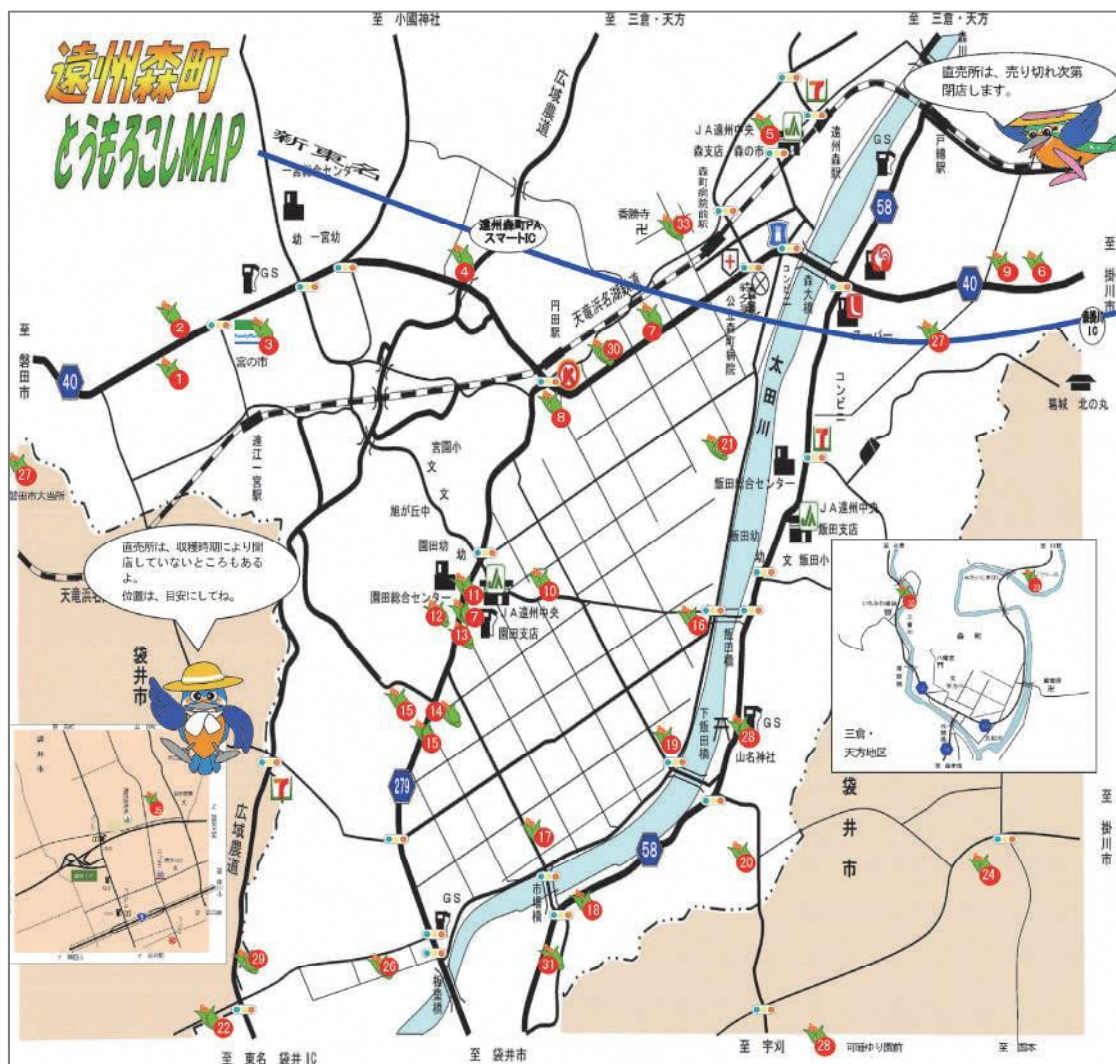


図. 遠州森町とうもろこし MAP

(9) 森町の観光の概況まとめ

表. 森町の観光の概況まとめ

取り巻く環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・新東名高速道路の豊田 JCT～御殿場 JCT の開通と 2 つの IC (森掛川・遠州森町スマート) の設置により、森町へのアクセス性が大幅に向上。 ・平成 24 年 11 月、全国京都会議に加盟。 ・平成 25 年 7 月、富士山世界遺産登録。 ・平成 27 年 4 月、町制 60 周年。
観光の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の動向として、旅行の動機は、「旅先でおいしいものを味わうため」「ストレスからの逃避、リラックスのため」が半数を占める。 ・行ってみたい旅行のタイプは、「温泉旅行」、「自然旅行」、「グルメ」、「歴史・文化観光」が上位であり、トレンドの変化はない。
観光交流客数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の観光交流客数は、増加傾向。 ・一方、宿泊客数は減少傾向。 ・観光交流客の多くは、小國神社への観光客であり、約 85 万人。次いでアクティ森が約 10 万人弱。イベントでは、森のまつり、納涼花火大会、もりもり 2 万人まつりが多く約 2.5 万人。 ・月別の観光交流客数の推移では、1 月の小國神社参拝客が約 40 万人、次いで 11 月の森のまつりや紅葉シーズンの約 18 万人。宿泊は、8 月が最多。
新東名高速道路 IC 利用	<ul style="list-style-type: none"> ・近年は利用総数は増加傾向。特に遠州森町スマート IC が増加。H27 年度は、森掛川 IC が約 104.5 万台、遠州森町スマート IC が約 36.2 万台となっている。 ・月別では 3 月、8 月、5 月の順に多くなっているが、観光交流客数のピークと異なる。 ・IC ごとにピークが異なり、森掛川 IC が 8 月、3 月、5 月、遠州森町スマート IC が 3 月、1 月、11 月の順に多くなっており、月別の観光交流客数が多い 1 月、11 月と重なることから、小國神社参拝客の IC 利用が推測される。
天竜浜名湖鉄道の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・戸綿駅、遠州森町、円田駅、森町病院前駅、遠江一宮駅の 5 駅が設置されており、利用総数は増加傾向。 ・H26 年度末に新設された森町病院前駅により、円田駅の利用者が減少。H27 年度の森町病院前駅は、従来の円田駅に迫る利用者 (約 2.1 万人) がある。
レンタサイクルの利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・遠州森町駅に 28 台のレンタサイクルが設置。利用時間は 9:30-15:30 で、利用料金は 300 円。 ・直近 10 年間では、H21 年度をピークに減少傾向が続き、H27 年度では 246 台 (ピーク比約 33%) である。 ・月別では 10 月、5 月、9 月の順が多い。

<p>森町の観光資源</p> <p>①施設等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神社・寺院、歴史的資源（文化財等）が多く、平地部の市街地である森地区と農業地域の一宮地区、園田地区、飯田地区と山間部の三倉地区、天方地区で施設の傾向が分かれる。 ・ 多くの観光資源は森地区にあり、農業地域の3地区は、「ふじのくに美しい品格のある邑」に登録され、田園風景が広がる。山間地は、自然とふれあえる場が多い。
<p>②イベント等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四季を通じてお祭りをはじめとする各種イベントがあるが、特に花（紅葉）を楽しめるイベントがあり、京都に通ずる点である。 ・ 冬のイベントが少なく、園田地区で開催されるイベントが少ない。 ・ 森地区と一宮地区では、朝市等定期的に開催されるイベントがある。 ・ 遠州の小京都をテーマとするイベントの実施はない。
<p>③観光コース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光コースとして、ウォーキングコースが2種類、サイクリングコースが1種類の3つのマップが発行されている。 ・ 小京都関連では、「京都ゆかりのお話」を紹介した「四季の小京都 見て歩き」があり、3つのテーマごとに趣向を凝らしたコース設定がされている。
<p>観光客の受入体制等</p>	
<p>①宿泊施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊施設は3施設のみで、収容人数は総数105人。
<p>②飲食施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食施設は28件で、森地区に多く、和食処が多い。三倉地区、園田地区は1件のみ。
<p>③茶商</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶商組合の会員は、森地区に12社と多い。
<p>④菓子業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 菓子組合の会員は7店であり、森地区に5店と多く、和菓子の老舗が多い。
<p>⑤森山焼</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治44年に創始され、県内で最も大きい窯場であり、4つの窯元（中村・静邨・晴山・田米）がある。静岡県知事指定の伝統工芸品となっている。
<p>⑥農の恵み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名産品として、森の茶、治郎柿、レタス、とうもろこし、メロン、椎茸等の農産物や甘酒、手づくりハム、ワインなどの加工食品がある。 ・ 特に近年は、とうもろこしが人気で、収穫時期の6月頃には「遠州森町とうもろこしマップ」が紹介される。 ・ 農産物等の直売所が森地区、一宮地区、天方地区の3地区にある。

「遠州の小京都まちづくり」基本計画

遠州の小京都まちづくり推進会議

事務局/森町役場産業課

〒437-0293 静岡県周智郡森町森2101-1

TEL : 0538-85-6319 FAX : 0538-85-5259

E-mail : kanko@town.shizuoka-mori.lg.jp

URL : <http://www.town.morimachi.shizuoka.jp/>